久留米市文化財調査報告書　第 431 集

京隈侍屋敷遺跡

—第 30・31 次発掘調査報告—

令和３年（2021）３月
久留米市教育委員会

京隈侍屋敷遺跡

—第 30・31 次発掘調査報告—

令和３（2021）年３月
久留米市教育委員会

序

福岡県久留米市は、福岡県第三位の人口を誇る県南の中核都市です。その歴史は古く、旧石器時代から人々の生活の痕跡が残されています。交通においては、縦横の陸路と筑後川の水運が交差する好立地を有し、九州の心臓ともいえる重要な位置を占めています。

このような環境の下、久留米市は、日本一住みやすいまち、幸せを実感できるまちを目指してまちづくりに努めています。

今回、市立京町小学校校舎等改築に先立って調査を実施した京隈侍屋敷遺跡は、久留米市の北西部の市街地中心部に位置し、江戸時代には有馬家家臣団の居住地でした。

今回の調査では、武家屋敷の造成痕跡や４家分の屋敷境が確認され、屋敷の敷地内からは、井戸や溝、土坑など久留米藩に仕えた侍の生活の痕跡が発見されました。

この成果を活かして郷土学習や地域振興、文化教育の発展に寄与できることを願います。

また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました地域住民及び関係者の方々に心より御礼申し上げます。

令和３年３月31日

久留米市教育委員会
教育長　井上　謙介

例言

1．本書は市立京町小学校校舎等改築に先立ち、平成28～令和元年度にかけて実施した京隈侍屋敷遺跡第30・31次調査の発掘調査報告書である。

2．本調査は久留米市教育部学校施設課の依頼を受けて久留米市教育委員会が主体となり、市民文化部文化財保護課の熊代昌之と江頭俊介が担当した。

3．本書に掲載した遺構実測図の作成は、調査担当者及び舟越朝菜、藤木幸子、中村麻衣、山口誠也が行い、浄書は調査担当者及び今村理恵、宮﨑彩香、湯川琴美が株式会社CUBIC社「遺構くんcubic」及びAdobe社「Illustrator」で行った。遺物の実測は江頭と山元博子が行った。

4．遺構写真は現地において調査担当者がマミヤRB67、CANONE Ｓ６Ｄを用いて撮影した。空中写真撮影は、有限会社空中写真企画に委託した。遺物写真は、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX　K-1Ⅱを用いて調査担当者が撮影した。

5．遺構実測図は国土調査法第Ⅱ系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位はすべて座標北を示す。なお、熊本地震に伴うパラメータ補正は行っていない。

6．本書に使用した遺構の略記号は、ＳＡ－柵列、ＳＥ-井戸、ＳＫ－土坑、ＳＰ-ピット、ＳＸ-性格不明遺構・流路を示す。

7．遺物観察表の単位はcm、（　）内の数値は、復元値・残存値を示す。

8．出土遺物及び記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵保管されている。

9．本調査の略記号はLKG-30・31、調査番号は、30次-201605、31次-201904である。

10．本書の編集は熊代が行った。執筆は主に第２章を熊代が、第３章を江頭が担当した。

本文目次

第1章　はじめに
1.　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2.　調査の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3.　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
4.　位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2章　第30次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1.　検出遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
3.　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第3章　第31次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
1.　検出遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
2.　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
3.　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

挿図目次

第1図　調査地周辺の遺跡分布図（1/25,000）・・・・・4
第2図　調査地の位置図（1/2,500）・・・・・・・・・6
第3図　絵図から見る調査区の位置(縮尺任意)・・・・・6
第4図　京隈侍屋敷遺跡第30・31次調査遺構配置図（1/150）・・・・・・・・・・・・・・・・・・折込
第5図　SA213実測図（1/80）・・・・・・・・・・・・・・7
第6図　SD2・62・64・155・200・209・215実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第7図　SE138・146・147・174・187実測図（1/40）・・10
第8図　SK4・5・6・11・12・14・20実測図（1/40）・・12
第9図　SK19・21・35・37・40・46・50・52・57実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第10図　SK85・90・92・95・97・98実測図（1/40）・・16
第11図　SK100・103・120・128・129・131・153実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第12図　SK142・156・157・158・159・160・171・175実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第13図　SK180・190・211・212・219実測図（1/40）・・22
第14図　SK217・223・226・233・237実測図（1/40）・・23
第15図　SK240・243・248・253実測図（1/40）・・・・25
第16図　SK249・256・266・267・270・271実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第17図　SK268、SP230・263実測図（1/40）・・・・・・27
第18図　SK269実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・29
第19図　SX70実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・31
第20図　屋敷境と空間利用天保～幕末期（1/500）・・33

第21図　第31次調査区遺構配置図（1/100）　・・・・・48
第22図　SD9・12、SK2・5・7・8・15・18・19実測図(1/40)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
第23図　SK21実測図(1/40)・・・・・・・・・・・・・50
第24図　SD6・9・21、SX12、SK2・5出土遺物実測図（1/4）・51
第25図　SK7・15・19・21遺物実測図（1/4）・・・・・52
第26図　第31次調査区時期別遺構図（1/100）　・・・・55

表目次

第 1 表　第 30 次調査遺物観察表 1・・・・・・・34
第 2 表　第 30 次調査遺物観察表 2・・・・・・・35
第 3 表　第 30 次調査遺物観察表 3・・・・・・・36
第 4 表　第 30 次調査遺物観察表 4・・・・・・・37
第 5 表　第 30 次調査遺物観察表 5・・・・・・・38
第 6 表　第 30 次調査遺物観察表 6・・・・・・・39
第 7 表　第 30 次調査遺物観察表 7・・・・・・・40
第 8 表　第 30 次調査遺物観察表 8・・・・・・・・41
第 9 表　第 30 次調査遺物観察表 9・・・・・・・・42
第 10 表　第 30 次調査遺物観察表 10・・・・・・・43
第 11 表　第 30 次調査遺物観察表 11・・・・・・・44
第 12 表　第 30 次調査遺物観察表 12・・・・・・・45
第 13 表　第 30 次調査遺物観察表 13・・・・・・・46
第 14 表　第 31 次調査遺物観察表 ・・・・・・・・54

図版目次

図版 1　1. 調査地点より筑後川を望む（東から）
2. １区遠景（南から）
図版 2　1. ２区遠景（南から）
2. ３区遠景（南から）
図版 3　1. SA213 全景（北から）
2. SD2 土層（北から）
3. SD62 掘下状況（南から）
4. SD200 土層（南から）
5. SD209 遺物出土状況（北から）
6. SE138 掘下状況（東から）
7. SE146・147 掘下状況（北から）
8. SE174 掘下状況（南から）
図版 4　1. SE187 掘下状況（南から）
2. SK5 遺物出土状況（南から）
3. SK5 遺物出土状況拡大（南から）
4. SK5 完掘状況（西から）
5. SK6 完掘状況（東から）
6. SK11 完掘状況（西から）
7. SK12 遺物出土状況（東から）
8. SK19 完掘状況（南から）
図版 5　1. SK20 壁検出状況（西から）
2. SK85 完掘状況（西から）
3. SK90 完掘状況（西から）
4. SK92・95 完掘状況（北から）
5. SK100 完掘状況（東から）
6. SK103 完掘状況（西から）
7. SK120 完掘状況（東から）
8. SK128 検出状況（東から）
図版 6　1. SK129 検出状況（東から）
2. SK131 完掘状況（東から）
3. SK153 完掘状況（北から）
4. SK158 完掘状況（西から）
5. SK171 完掘状況（西から）
6. SK175 検出状況（西から）

7. SK180 完掘状況（北から）
8. SK190 完掘状況（南から）
図版 7　1. SK212 完掘状況（東から）
2. SK217 完掘状況（南から）
3. SK219・226 完掘状況（南から）
4. SK223 完掘状況（西から）
5. SK233 完掘状況（西から）
6. SK243 完掘状況（西から）
7. SK248 土層状況（北から）
8. SK268 完掘状況（北から）
図版 8　1. SK271 完掘状況（東から）
2. SP230 出土状況（北東から）
3. SX70 検出状況（南から）
4. 東西屋敷境段差（北から）
5. 東西屋敷境段差（南から）
6. 南北屋敷境段差（東から）
7. 4 区遠景（北から）
8. 4 区掘下状況（北から）
図版 9　出土遺物写真 1
図版 10　出土遺物写真 2
図版 11　出土遺物写真 3
図版 12　出土遺物写真 4
図版 13　出土遺物写真 5
図版 14　出土遺物写真 6
図版 15　出土遺物写真 7
図版 16　出土遺物写真 8
図版 17　出土遺物写真 9
図版 18　出土遺物写真 10
図版 19　出土遺物写真 11
図版 20　1. 調査区遠景（南東上空から）
2. 調査区遠景（東上空から）
図版 21　1. SD6 完掘状況（北から）
2. SD9・SX12 土層断面（西から）
3. SK2 土層断面（北から）
4. SK2 完掘状況（西から）
5. SK5 土層断面（北から）
6. SK5 完掘状況（北から）
7. SK7 完掘状況（北から）
8. SK8 完掘状況（西から）
図版 22　1. SK10 完掘状況（北から）
2. SK15 完掘状況（東から）
3. SK18 土層断面（西から）
4. SK21 掘削状況（西から）
5. SK21 土層断面（東から）
6. SX12 土層断面（南から）
7. SX12 掘削状況（北から）
8. SX12 土層断面（西から）
図版 23　出土遺物写真 1
図版 24　出土遺物写真 2

第１章　はじめに

１．調査に至る経緯

本調査は、京町小学校校舎等改築に伴う事前の発掘調査である。平成 28 年１月７日、教育部学校施設課から、久留米市京町 256 における「埋蔵文化財包蔵の有無」について照会が提出された。当該地一帯は周知の遺跡である京隈侍屋敷遺跡にあたり、今回の開発においても江戸時代の遺跡が地中に残存している可能性があると考えられたため､同年４月１日発掘調査が必要な旨を回答した。平成28年６月13日、発掘調査の依頼及び文化財保護法94条の通知が提出され、それを受けて同年６月 30 日から平成 29 年３月 16 日まで、校舎新築予定地の西半分において、現地における発掘調査（第 30 次調査）を実施した。

校舎東半分の建設予定地には体育館があり、その解体が終了した令和元年７月１日から９月 12 日まで、現地における発掘調査（第 31 次調査）を実施した。

現地調査後は、令和元年度から２年度にかけて、遺物整理作業及び報告書作成を実施した。なお、第 30・31 次の調査面積はそれぞれ 829 ㎡、125 ㎡であり、合計は 954 ㎡である。

２．調査の体制

施工担当　教育部　学校施設課

調査主体　久留米市教育委員会

　　教育長　　大津秀明（平成 28 ～令和元年度）　井上謙介（令和２年度）

調査総括　市民文化部

　　部　長　　野田秀樹（平成 28 ～ 29 年度）　　松野誠彦（平成 30 年度）

　　宮原義治（平成 31・令和元年度）

　　竹村政高（令和２年度）

　　文化芸術担当部長　甲斐田忠之（平成 28 ～ 29 年度）

　　竹村政高（平成 30 ～令和元年度）

　　次　長　　竹村政高（平成 28 年度）　　西村信二（平成 29 ～令和２年度）

調査担当　文化財保護課

　　課　長　　馬場博文（平成 28 ～ 29 年度）　　水島秀雄（平成 30 ～令和２年度）

　　課長補佐　山﨑万里子（平成 28 ～ 29 年度）　久保田由美（平成 30 ～令和２年度）

　　主　査　　水原道範（平成 28 ～令和２年度）

　　事務主査　豊福早苗（平成 28 ～ 29 年度）

　　塚本映子（平成 28 ～令和元年度）

　　小澤太郎（平成 31・令和元～２年度）

庶務担当　市村久美子（平成 30 ～令和２年度）
事前確認　神保公久（平成 28 年度）
調査担当　熊代昌之（平成 28 年度）　江頭俊介（平成 31・令和元年度）
整理担当　古賀和子（平成 28 年度）　宮﨑彩香（平成 28 ～令和２年度）
米澤美詠子（平成 28 ～令和２年度）
岩坪純子（平成 29 年度）　今村理恵（平成 30 ～令和２年度）

発掘調査臨時職員
青木佐智子、秋永絹子、石橋康子、伊藤美樹、上薬友記、大淵文子、大江田博子、居石寿智、鎌江清、蒲池稔、川原初美、久保田英嗣、合戸喬一、古賀香澄、進上裕永、高尾春代、田中樹子、田中とし子、永尾忍、中村麻衣、中村万喜男、野口忠勝、原学、原口貞子、福田猛、藤木幸子、舟越朝菜、平田広之、松尾朱美、松尾英明、丸山幸、溝口輝男、矢野崇徳、山口誠也、渡辺しげ子

発掘調査整理臨時職員
阪柿友紀、後藤とみ子、田島博子、福田澄子、矢野祐子、山口由季子、山元博子、湯川琴美

３．調査の経過

（１）第 30 次調査

新校舎建設地西側の調査を行った。調査区が学校校庭であるため、対象地を西側・中央・東側の３分割して、西から１区、２区、３区として調査を行うこととし、平成28年６月30日より西区の調査を開始した。同日、校庭にプラスチックフェンスを設置し調査区をグランドより隔離する。午後に機材を搬入し現場作業の準備を行う。７月１日、重機による表土剥ぎを開始し、梅雨時の降雨に悩まされながらも、14日に表土剥ぎを終了する。表土剥ぎに並行して、７月４日より作業員を投入して遺構検出を開始する。その後、遺構掘削・測量・写真撮影を随時行い、８月19日空中写真撮影を実施した。その後、掘り残していたＳＤ62の掘り下げを行う。８月22日学芸員実習生の現場体験を受け入れる。９月２日、台風12号の接近に伴い、深掘りを行っていたＳＤ62を急遽埋め戻し、台風養生を行う。９月６日より１区の埋め戻しと並行して、2区の表土剥ぎを重機により実施。９月15日表土剥ぎを完了し、遺構検出を開始する。並行して、遺構掘削、測量、写真撮影を随時行う。９月16日台風16号の接近に伴い、台風養生を行い現場中断。９月20日に復旧作業を行い、調査を再開する。９月27日６年生を対象として体験発掘を行う。生徒・保護者を含め60名が参加した。10月３日台風18号の接近に備え、台風養生を行い作業中断。10月６日に復旧作業を行い、調査を再開する。10月30日に２区の空中写真撮影を実施する。11月７日井戸状遺構の断割りを重機にて実施する。11月８日より２区の埋め戻しを開始。降雨による中断を経て、11月15日３区の表土剥ぎを完了する。11月17日より遺構検出を開始し、同時に遺構掘削、測量、写真撮影を随時行う。12月13日、現地にて今後の工程会議を京町小学校・学校施設課と行い、工事車両搬入口がスロープ状に掘下げ

られることから、３月に学校敷地北西部分の一部を確認調査（４区）することとした。平成29年１月17日空中写真撮影を行い、翌18日より重機による埋め戻しを開始する。埋め戻しの土量が不足したため、２月17日に埋戻し業務の委託契約を行い、２月21日から３月３日にかけグラウンドの復旧作業を行う。３月６日より北西部に位置する４区の調査を開始、重機による表土剥ぎを行う。翌７日に表土剥ぎを終了するが、対象地の３分の２が旧校舎の基礎による削平を受けており、残りの３分の１部分についてのみ調査を行うこととなった。３月８日より作業員を投入し、遺構の検出作業を行い、並行して遺構掘削、測量、写真撮影を行う。３月14日に調査区全体写真を撮影する。同日、遺構検出面が造成面と推定されたため、重機による掘り下げを行い、地山面の確認を行うも、現地表より４ｍの地下げを行っても地山に到達できなかったため、安全面を考慮し、地山の検出を断念する。その後、略測を行い埋戻しを行う。３月16日、全ての機材を撤収し調査を終了した。

遺構の測量は株式会社CUBIC「遺構くんcubic」を用いて実施し、一部遺構については、水糸メッシュ法により実測を行った。遺構写真は、マミヤRB67を用いて撮影を行った。

（２）第31次調査

新校舎東半分の建設予定地を対象に調査を実施した。旧体育館解体の際の立会調査の結果、旧体育館部分の遺構が残存していないことが確認された。そのため、第31次調査の調査区は、既に竣工した新校舎東半分と旧体育館の間の138㎡の区域が対象となった。令和元年７月１日より、作業員駐車場の整備、バリケード設置、縄張り等を行い、７月５日より、重機による表土剝ぎを行った。遺構の検出実施後、各遺構の掘削、測量、写真撮影等の記録保存調査を行った。７月16日には、６年生を対象に、体験発掘を実施した。途中、酷暑や台風による中断を挟みながら調査を進め、９月６日には空中写真撮影を実施した。９月10日からは、埋戻し等を行い、９月12日に現地調査を終えた。

遺構の測量は株式会社CUBIC「遺構くんcubic」を用いて実施し、遺構写真は、Canon EOS６Ｄで撮影した。

４．位置と環境

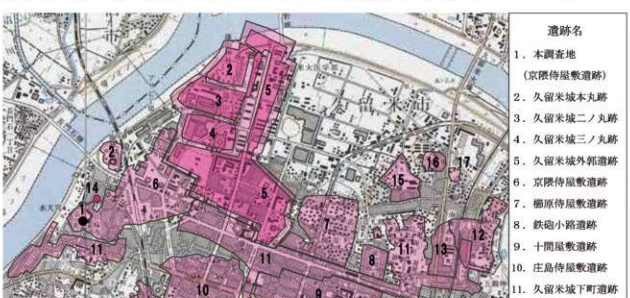
久留米市は九州の北部、福岡県のほぼ中央に位置し、南北16㎞、東西32㎞の東西に長い市である。市域は、九州一の大河筑後川の中下流域に沿っている。

筑後川は熊本県阿蘇郡瀬の本高原に端を発し、山岳部を北流したのち、玖珠川を合わせ、うきは市、日田市にまたがる夜明ダムを通過し、平野部に出る。ここまでが上流域であり、以西は中流域である。平野部では佐田川、小石原川、大刀洗川、巨瀬川、宝満川などを合わせ西流し、久留米市北西部の久留米城あたりで南西に流れを変える。久留米市大善寺の筑後川大堰より以西は下流域となり、佐賀県と県境を成す。流域面積は2,860平方キロメートルを測り、九州最大の平野である筑紫平野を形成している。

筑紫平野の中央に位置する久留米市は、戦国末期以降、久留米城の城下町として発展し、人口30万人を擁する、筑後地方の中核都市である。中心市街地は、久留米城がある篠山町を中心として、その西に隣接する京町や、東に隣接する櫛原町、南に隣接する中央町などは、古くから久留米の町の中枢となった地域であり、現在は市役所や法務局、高校などの公共施設や、商店街などが立地している。この「久留米の街」が形成される起源となったのは、中世、おおよそ室町時代と考えられる。

旧石器時代から古代における調査地周辺の歴史的な環境は、後述する久留米城及び城下町の大規模な削平・造成によって判然としない。旧石器時代では、ナイフ型石器が隣接する久留米城外郭遺跡で出土しており、その痕跡が確認できる。縄文時代については、現在のところ遺構は確認されていない。弥生時代には第６次調査で甕棺墓が、第４・23次調査で竪穴建物跡が検出されており、弥生時代の集落・墓地が展開していた状況を示す。古墳時代には、調査地が位置する京町小学校の北に、５世紀後半の前方後円墳である日輪寺古墳が所在する。日輪寺古墳は墳長50mを測り、主体部である横穴式石室には、同心円文等の装飾がある石障を有す装飾古墳である。古代の遺構は、土坑等が散見されるがその密度は希薄である。中世になると、第12・13次調査等から溝等の遺構が確認されており、城下町造成前の遺構が検出されている。

「くるめ」の文献における初出は、『筑後鷹尾文書』における建武３年(1336) ２月 13 日「瀬高下庄々官等連署去渡状写」に見える「くるめかた」である（『久留米市史』第７巻Ｐ．509)。次に貞和３



第１図　調査地周辺の遺跡分布図（1/25,000）

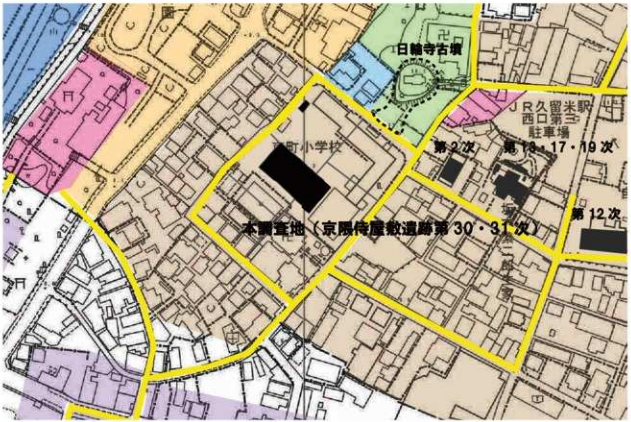
年（1347）には『御船文書』において「久留米入道」が見える（『久留米市史』７巻Ｐ257）。『隈文書』「報恩寺々領坪付之事」には、応永25年（1418）２月28日付で「くるめ屋敷」「久留米屋敷」「久留目屋敷」の記載がある（『久留米市史』第１巻Ｐ.745）。続いて『鷹尾神社関係文書』応永27年（1420）７月「溝口目安申状案」に「久留米方」の記述があり（『久留米市史』第７巻Ｐ.537）、いずれも高良山関係者で、久留米を拠点にした僧侶とその集団の存在を示している。戦国期前後に書かれた『高良玉垂宮神秘書』においては、祭事の世話役とみられる「十二人ノヲトナ」の中に、「クルメ」がみえることからも、中世における久留米の発祥には、高良山勢力が関係していることが窺える。

戦国期の久留米は、龍造寺、大友、島津の三大勢力の争奪の場となった。その後、秀吉による九州出兵を経て、久留米城主となったのは毛利元就の九男、小早川秀包である。諸説あるが、御井郡の一部と山本郡を合わせた3,500石を領有した。現在の久留米市役所庁舎建設に先立って実施された両替町遺跡（久留米城下町遺跡第２次調査）では、毛利家の沢瀉紋鬼瓦や大規模なキリスト教会堂の遺構が検出されている。関ヶ原合戦後には、田中吉政が筑後国主として入封し、柳川城を本城とした。士木の神様として知られる田中吉政は、梅林寺岸の開削や、城郭の整備、柳川久留米間の幹線道路建設など大規模な整備を行った。このころには、久留米城（後の本丸・二ノ丸、三ノ丸）、祇園丁（元町、後の久留米城外郭）、柳原、内町、三本松町、長町（後の通町）、洗切（京隈の西端に位置する川湊）が形成されており、この頃から、久留米城下町の骨格がすでに完成していたと考えられる。２代目忠政には子がなく、1620年に断絶したのち、翌年には筑後北半国が有馬豊氏に与えられ、久留米21万石の領主となった。その後明治初期まで久留米は有馬の城下町として栄えた。

本調査区が位置する京町は、中世には経隈村と呼ばれた村落が存在した。有馬入城後、外郭や侍屋敷が建設される際には、祇園丁とともに、経隈村の住民も城外に移転させられたことが記されている。（『石原家記』）櫛原、庄島、十間屋敷ともに久留米城を囲むように建設された侍屋敷である京隈小路（きょうのくまこうじ）は、上・中級武士の屋敷地であった。小路の北西端にあった川湊・洗切（あらいぎり）は、有馬水軍の根拠地となり、港町は小路南端の瀬下町に集約された。小路の西側は、筑後川に沿って、北に梅林寺、南に水天宮が置かれた。水天宮は２代目藩主忠頼の時代に、城下町から当地に移転した。京隈小路は筑後川の河岸段丘上にあり、起伏に富んだ地形であることから、有馬入城後に大規模な造成工事が行われたと見られ、現在も急な段造成の痕跡が残っている。

京隈小路には、寺社のほか、140軒の屋敷が建ち並んでいた。１軒の面積は、おおむね1,500～2,000㎡を有し、居住者は150～500石程度の上・中級武士であった。京隈小路出身の著名人は、枚挙にいとまがないが、近代洋画の坂本繁二郎をはじめ、幕末の藩政改革に尽力した村上守太郎、久徳与十郎、松岡伝十郎、本庄仲太、久留米藩大参事の水野正名、三越百貨店の創業者日比翁助などが代表的である。

第30・31次調査区は、京隈小路を南北に貫く小松原地区の西側にあたり、居住者は、延宝期は第30次調査地が鈴木氏・安藤氏・岩井氏・岡本氏、第31次調査地が安藤氏、天保期は第30次調査地が山田氏・岡本氏・佐々木氏・高橋氏、第31次調査地が高橋氏である。



第２図　調査地の位置図（1/2, 500）

延寶八年久留米市街図（1680 年）

伝元禄十四年製之古図（1701 年カ）

天保年間久留米城下図（1830 ～ 1844 年）

明治二年旧郭図（1869 年）

第３図　絵図から見る調査区の位置（縮尺任意）

第４図 京隈侍屋敷遺跡第30次遺構配置図（1/150）

第２章　第 30 次調査

１．検出遺構

今回の調査では、17 世紀半ばの造成痕跡、武家屋敷の屋敷境、近世の溝７条、井戸４基、土坑 61 基、ピット等が検出された。

柱列

ＳＡ 213（第５図　図版３）

調査区北東に位置する柱列痕で、第 30 次調査から第 31 次調査地にわたり検出された 10 基のピットにより構成される。ピットの直径は約 30 ㎝から 40 ㎝で、深さは 45 ㎝から 8 ㎝を測る。柱間は芯々間で 1.85 ｍを測り、残存長は 16.8 ｍである。柱列は、天保年間久留米城下図の佐々木家と高橋家の屋敷境に位置しており、両家の屋敷地を区画する構造物の一部であったと考えられる。各ピットより柱痕跡を確認していることから、掘立柱が建てられていたと想定されるが、上屋の構造は不明である。屋敷の境界に位置することから、柵列もしくは塀の可能性が考えらえる。各ピット埋土中より、磁器の碗・皿・急須、陶器の急須・火入等が出土しており、19 世紀の半ばに位置づけられる。

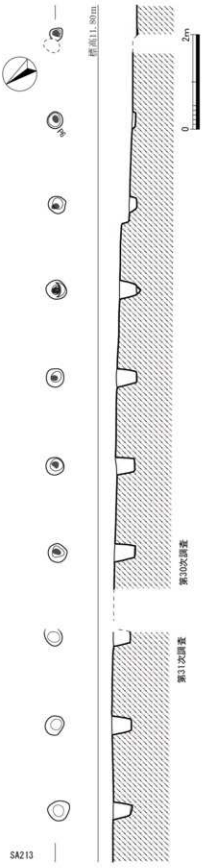
溝

ＳＤ２（第６図　図版３）

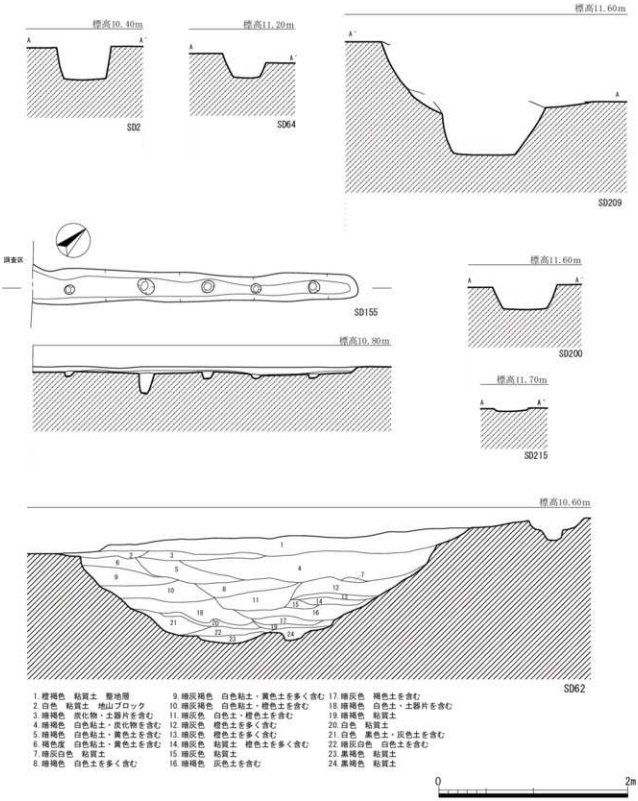
調査区北西隅に位置する溝で、南西隅で逆Ｌ字に屈曲し調査区外へと延びる。北端部は、北側屋敷境の段落ち手前で途切れる。長さは、南西から北東方向に 6.71 ｍ、屈曲した北西方向に 1.12 ｍが検出されている。溝の断面は逆台形で、幅 0.77 ｍ、深さ 0.55 ｍを測る。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられるが断定はできない。埋土中より、磁器の碗、土師質の灯明皿等が出土しており、18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＤ 62（第６図　図版３）

調査区中央から北に向かい走行する溝で、北端部は調査区外へ延びる。南から北に向かい傾斜し、南端部の幅 1.55 ｍ、深さ 0.06 ｍ、北端部の幅 5.2 ｍ、深さ 3.7 ｍ以上を測り、幅、深さともに北に向かい規模が増大する。溝の断面は緩やかに内湾する逆台形を呈し、検出長は 14.5 ｍである。埋土中より、



第５図　ＳＡ213 実測図(1/80)



第６図　ＳＤ２・62・64・155・200・209・215実測図(1/40)

磁器の皿、陶器の皿等が出土しており、17 世紀半ばに位置づけられる。埋没状況から、人為的に埋め戻された状況が観察される。

ＳＤ 64（第６図）

調査区北、屋敷境上段部に位置する溝で、北隅でＬ字に屈曲し北側は調査区外へと延び、南東部は攪乱により削平される。長さは、南東から北西方向に 11.22 ｍが残存し、屈曲した北東方向に 0.52 ｍが検出されている。溝の断面は逆台形で、幅 0.51 ｍ、深さ 0.38 ｍを測る。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられるが断定はできない。埋土中より、磁器の碗・皿、陶器の埦等が出土しており、17 世紀後半に位置づけられる。

ＳＤ 155（第６図）

調査区中央南に位置する溝で、南部は調査区外へ延びる。底面に柱穴列を有す。長さ 3.44 ｍ、幅0.38ｍ、深さ0.13ｍを測る。溝の断面は逆台形で、底面の柱穴列は、直径10㎝から20㎝のピット５基で構成され、柱間は、北から芯々間で0.61ｍ、0.52ｍ、0.68ｍ、0.82ｍを測る。柵列もしくは塀の存在が想定される。埋土中より、陶磁器の細片が出土しているが、詳細な時期は断定できない。

ＳＤ 200（第６図　図版３）

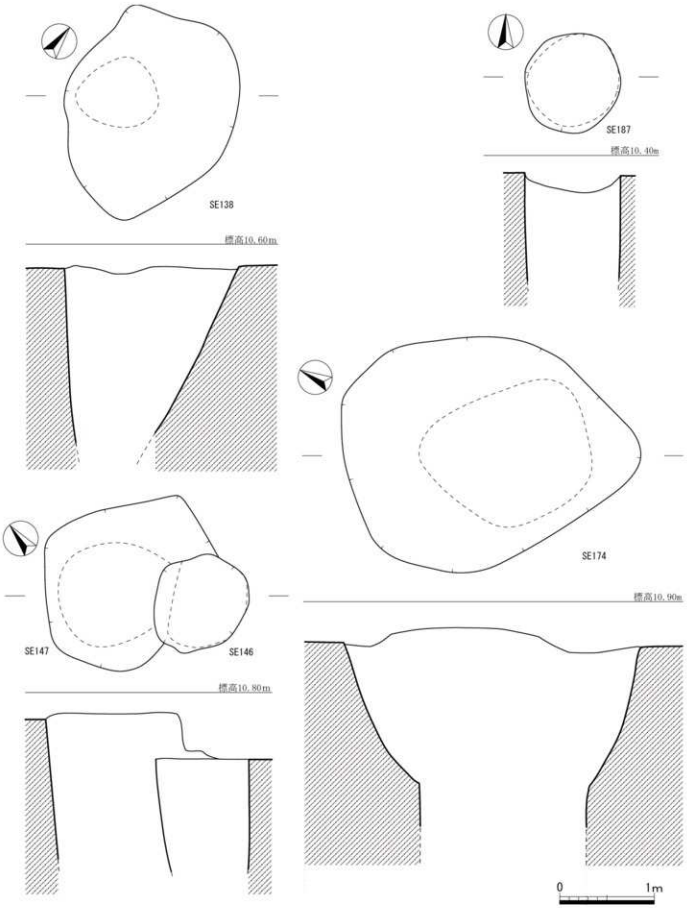
調査区東、屋敷境上段部に位置する溝で、北側をＳＫ 212 によって削平される。長さ 8.27 ｍ、幅 0.67 ｍ、深さ 0.38 ｍを測る。溝の断面は逆台形で、溝の両端は隅丸方形を呈す。細長な土坑である可能性もあるが、溝の北側は屋敷境の段落ちに接しており、排水溝の可能性が高い。埋土中より、陶器の急須・鍋等が出土しており、19 世紀に位置づけられる。

ＳＤ 209（第６図　図版３）

調査区東、屋敷境下段部に位置する溝で、東西屋敷地の境界溝である。溝は、北側をＳＫ 268・271 によって削平されるか同時並存している。長さ 14.45 ｍ以上、幅 2.25 ｍ、深さは、東側 1.32 ｍ、西側 0.75 ｍを測る。溝は、東西の屋敷境、段造成の下段部隅に位置し、底面は北から南へと傾斜する。断面は、下半が逆台形で、上半は西側が緩やかに立ち上がり、東側は急峻な傾斜で立ち上がる。屋敷境の排水溝であり、東側上端と西側上端の比高差は、0.67 ｍを測る。埋土中より、磁器の碗・皿、陶器の埦・皿・壺・擂鉢等が出土しており、19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＤ 215（第６図）

調査区北東隅に位置する溝で、東端部で逆Ｌ字に屈曲し調査区外へと延びる。西端部は、次第に浅くなり途切れる。長さは、北西から南東方向に 3.83 ｍ、屈曲した北東方向に 3.13 ｍが検出されている。溝の断面は逆台形を呈し、幅 0.60 ｍ、深さ 0.19 ｍを測る。底面は、北東方向から南西方向へ傾斜する。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられる。埋土中より、ガラス片等が出土しており、19 世紀後半以降に位置づけられる。



第７図　ＳＥ138・146・147・174・187実測図（1/40）

井戸

ＳＥ138（第７図　図版３）

調査区中央北に位置する不整形井戸で、長軸2.20ｍ、短軸1.79ｍ、深さ1.86ｍ以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器のくらわんか手碗、陶器の小皿等が出土しており18世紀後半に位置づけられる。

ＳＥ146（第７図　図版３）

調査区中央に位置する不整円形井戸で、ＳＥ147を切る。長軸1.05ｍ、短軸0.90ｍ、深さ1.68ｍ以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗片等が出土しているが、遺物量は少なく時期決定が困難であるが、ＳＥ147が18世紀半ばに埋没していることから、18世紀半ば以降に位置づけられる。

ＳＥ147（第７図　図版３）

調査区中央に位置する不整円形井戸で、ＳＥ146に削平される。長軸1.93ｍ、短軸1.55ｍ以上、深さ1.52ｍ以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の埦・皿・鉢・壺等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

ＳＥ174（第７図　図版３）

調査区中央南に位置する不整円形井戸で、SK156等周辺遺構全てに切られている。長軸3.06ｍ、短軸2.41ｍ、深さ1.71ｍ以上を測る。断面はやや内湾しながら立上る逆台形を呈し、下半は垂直に立上る。底面までの掘り下げを行っていないため、底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗、陶器の擂鉢等が出土しており17世紀半ばに位置づけられる。その他、弥生土器、須恵器。中世磁器・土師器の破片を含み全遺構の中でも古段階に属する遺構である。

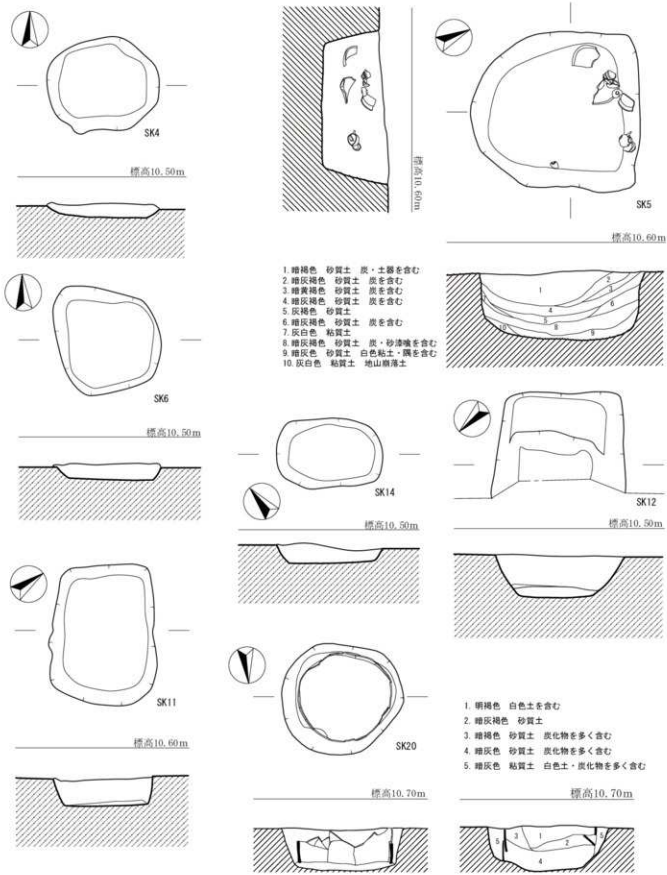
ＳＥ187（第７図　図版４）

調査区中央北に位置する円井戸で、長軸1.03ｍ、短軸0.99ｍ、深さ1.56ｍ以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗・瓶等が出土しており、19世紀前半以降に位置づけられる。

土坑

ＳＫ４（第８図）

調査区北西隅に位置する不整形土坑で、長軸1.18ｍ、短軸0.97ｍ、深さ0.19ｍを測り、断面はレンズ状を呈す。埋土中より陶器の鉢・瓶、土師質の灰取が出土しており17世紀後半に位置づけられる。



第８図　ＳＫ４・５・６・11・12・14・20実測図（1/40）

ＳＫ５（第８図　図版４）

調査区北西に位置する不整形土坑で、長軸1.67 m、短軸1.57 m、深さ0.65 mを測り、断面は逆台形を呈す。形状や遺物の出土状況から廃棄土坑として利用されたと考えられる。埋土中より西洋陶器の皿、磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の皿・急須等が出土しており、19 世紀前半から半ばに位置づけられる。

ＳＫ６（第８図　図版４）

調査区北西隅に位置する不整形土坑で、長軸1.09 m、短軸1.02 m、深さ0.17 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より16 世紀代の土師質土鍋片が出土しているが、周辺の状況から混入品の可能性が高く、時期は不明である。

ＳＫ11（第８図　図版４）

調査区北西に位置する隅丸長方形土坑で、長軸1.39 m、短軸1.06 m、深さ0.27 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の急須・片口鉢等が出土しており、19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ12（第８図　図版４）

調査区北西隅に位置する隅丸長方形土坑で遺構の北西半部が調査区外に延びる。長軸1.05m以上、短軸1.29m、深さ0.38mを測る。断面は逆台形を呈し、南にステップ状の高まりを一段有す。埋土中より磁器の小皿・向付・油壷、陶器の埦・片口鉢等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ14（第８図）

調査区中央北寄りに位置する隅丸長方形土坑で、長軸1.05 m、短軸0.71 m、深さ0.27 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より陶器の鉢等が出土しており19 世紀に位置づけられる。

ＳＫ19（第９図　図版４）

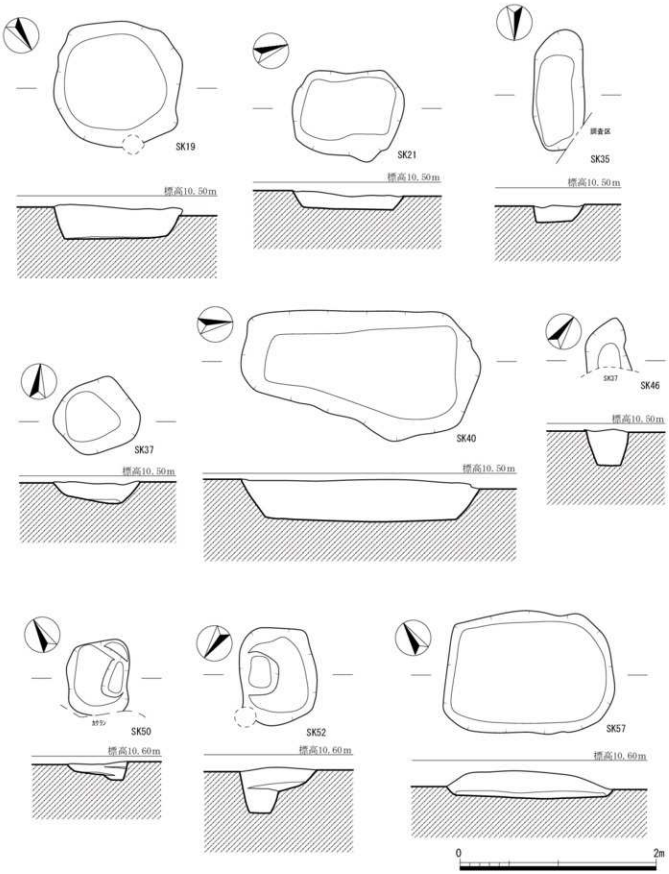
調査区北に位置する不整円形土坑で、長軸1.29 m、短軸1.28 m、深さ0.37 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の皿・急須等が出土しており19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ20（第８図　図版５）

調査区北西に位置する不整円形土坑で、長軸1.21 m、短軸1.10 m、深さ0.42 mを測る。壁面は垂直に近い角度で立ち上がり、土坑内に土師質大型甕を据付けている。甕は胴部下半を打ち欠き、口縁部を下向きに置かれており、口縁部付近は白色粘土が充填されている。機能は明確ではないが、土坑底面に粘土が充填され甕が据付けられていることから、水を一定量貯めておくことが考えられ、検出位置が、屋敷地入り口の庭に想定されることから、庭の景観を構成する１部材と考えられる。出土遺物は細片で時期は不明である。

ＳＫ21（第９図）

調査区北に位置する不整形土坑で、長軸1.14 m、短軸0.94 m、深さ0.24 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より土製の面子が出土しているが時期は不明である。



第９図　ＳＫ19・21・35・37・40・46・50・52・57 実測図(1/40)

ＳＫ 35（第９図）

調査区北西隅に位置する長円形土坑で、北西隅の一部が調査区外に伸びる。長軸 1.23 m、短軸 0.54 m、深さ 0.21 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の瓶等が出土しており 18 世紀末から 19 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 37（第９図）

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.88 m、短軸 0.79 m、深さ 0.23 mを測り、断面は東に傾斜するレンズ状を呈す。埋土中より磁器の碗等が出土しており 19 世代に位置づけられる。

ＳＫ 40（第９図）

調査区北西に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 2.45 m、短軸 1.34 m、深さ 0.50 mを測る。壁面は緩やかに立ち上がり、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿・瓶、陶器の片口鉢等が出土しており 19 世紀後半以降に位置づけられる。

ＳＫ 46（第９図）

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.57 m以上、短軸 0.46 m、深さ 0.35 mを測る。南半をＳＫ 37 によって削平を受け、全体形状は不明である。断面は逆台形を呈す。埋土中より陶器の溝縁皿、軒丸瓦等が出土しており 17 世紀代に位置づけられる。

ＳＫ 50（第９図）

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.78 m以上、短軸 0.64 m、深さ 0.20 mを測る。南側の一部を撹乱による削平を受ける。遺構の東および北に段を有し、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土中より磁器の端反碗・鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 52（第９図）

調査区西隅に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.00 m、短軸 0.79 m、深さ 0.50 mを測る。土坑東側をピット状に掘り込んでおり、柱穴の可能性もあるが、柱痕は確認できなかった。埋土中より磁器の蓋物、陶器の埦等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

ＳＫ 57（第９図）

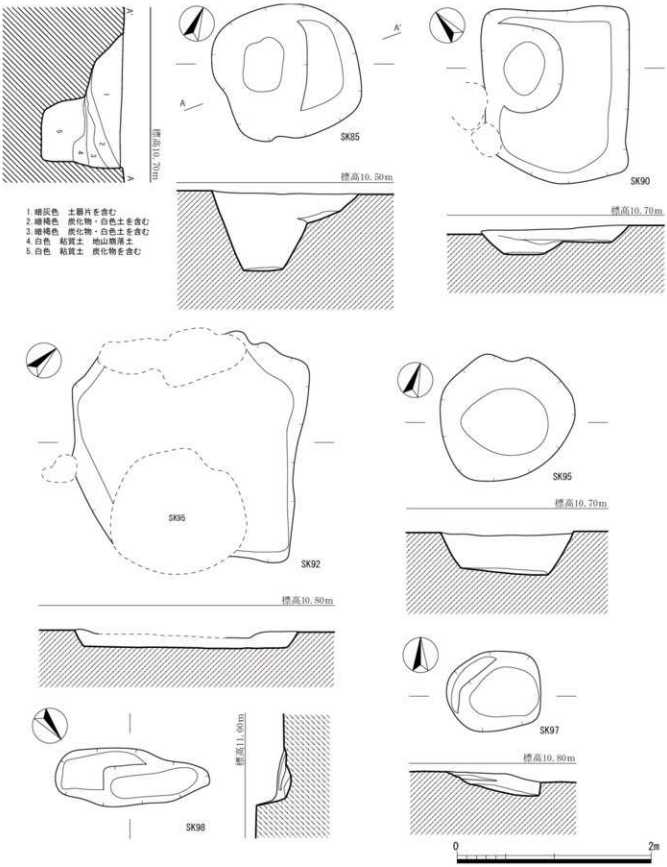
調査区北に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.75 m、短軸 1.24 m、深さ 0.26 mを測る。壁面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・蓋・猪口、陶器の埦等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 85（第 10 図　図版５）

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 1.55 m、短軸 1.41 m、深さ 0.89 mを測る。土坑東部に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗蓋、陶器埦・土瓶等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

ＳＫ 90（第 10 図　図版５）

調査区中央北に位置する隅丸方形土坑で、長軸 1.82 m、短軸 1.53 m、深さ 0.33 mを測り、ＳＫ109を切る。土坑北部にピット状の堀込を有す。断面形は逆台形を呈す。埋土中より磁器の埦・



第10図　ＳＫ85・90・92・95・97・98 実測図(1/40)

小皿、陶器の飴壷等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 92（第 10 図　図版５）

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸2.40m、短軸2.36m、深さ0.23mを測り、ＳＫ95他の土坑によって削平を受ける。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 95（第 10 図　図版５）

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸1.38m、短軸1.31m、深さ0.55mを測り、ＳＫ92を切る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・蓋・皿、陶器の壷・灰入等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。埋土中に含まれる遺物が一定の量があることから最終的には、廃棄土坑として利用されている。

ＳＫ 97（第 10 図）

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 0.97 m、短軸 0.83 m、深さ 0.24 mを測る。断面は、底面が西から東に向かい傾斜し、西側に段を有す。埋土中より陶器の土瓶等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

ＳＫ 98（第 10 図）

調査区中央北に位置する長円形土坑で、長軸 1.60 m、短軸 0.61 m、深さ 0.37 mを測る。屋敷境の段差に位置するため、掘方は北側が高く、南側が低い。断面は底面が南に傾斜し、北の立上りは急である。南に段を有す。埋土中より磁器の碗、軒丸瓦等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 100（第 11 図　図版５）

調査区中央西に位置する不整形土坑で、長軸 2.44 m以上、短軸 2.34 m、深さ 0.57 mを測り西と東の一部を土坑及びピットにより削平される。土坑南部に段を３段有し、北西にピット状の堀込を有す。壁面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・鉢、陶器の急須・擂鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 103（第 11 図　図版５）

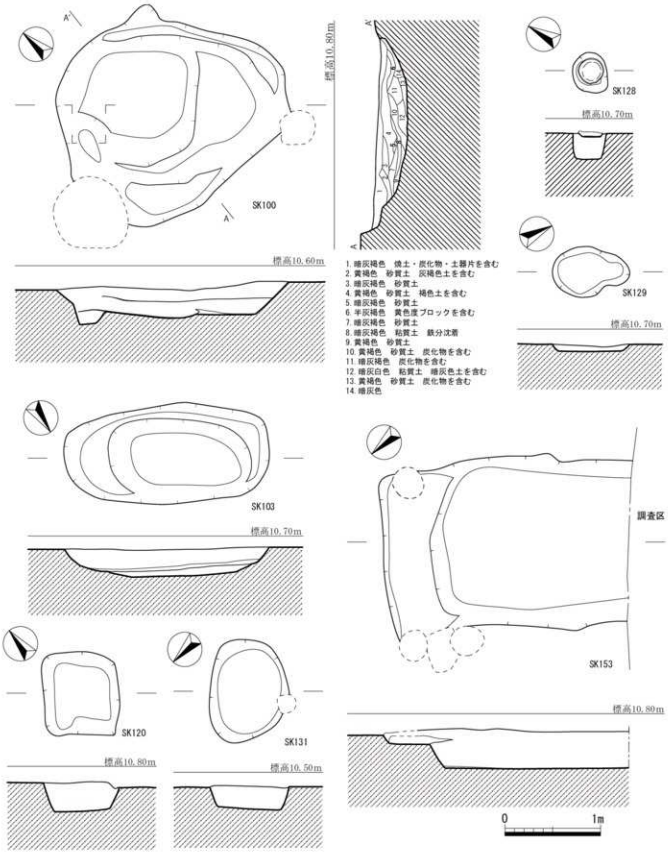
調査区中央に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 2.15 m、短軸 1.07 m、深さ 0.35 mを測る。土坑南部に段を有し、壁面は緩やかに立上る。埋土中より磁器の端反碗・皿・壷、陶器のミニチュア鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 120（第 11 図　図版５）

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸0.86m、短軸0.80m、深さ0.32mを測り、ＳＫ142を切る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の埦等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 128（第 11 図　図版５）

調査区中央に位置する楕円形土坑で、長軸 0.44 m、短軸 0.36 m、深さ 0.27 mを測る。断面は



第11図　ＳＫ100・103・120・128・129・131・153実測図(1/40)

逆台形を呈す。土師質の甕が据えられており、便槽と考えられる。

ＳＫ 129（第11図　図版６）

調査区中央に位置する不整円形土坑で、長軸0.78 m、短軸0.53 m、深さ0.17 mを測る。壁面は緩やかに立上る。陶器の甕が出土しており、便槽と考えられる。

ＳＫ 131（第11図　図版６）

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸0.89 m、短軸0.79 m、深さ0.27 mを測り、ＳＥ138を切りピットによる削平を受ける。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、清朝磁器碗等が出土しており19世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 142（第12図）

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸0.83 m、短軸0.34 m以上、深さ0.20 mを測り、ＳＫ120によって東半を削平される。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の鉢、軒丸瓦等が出土しており18世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 153（第11図　図版６）

調査区中央南に位置する長方形土坑で、南半部が調査区外に伸びる。長軸2.61 m以上、短軸1.84 m、深さ0.48 mを測り、ピットによる削平を受ける。断面は逆台形を呈し、北側に段を有す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の埦・擂鉢等が出土しており18世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 156（第12図）

調査区中央南に位置する不整形土坑で、南半部が調査区外に伸びる。長軸0.97 m以上、短軸1.02 m、深さ0.09 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗、陶器のハマ等が出土しており19世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 157（第12図）

調査区中央南に位置する不整形土坑で、ＳＫ158を切る。長軸1.00 m、短軸0.59 m、深さ0.29 mを測る。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土中より磁器の端反碗等が出土しており19世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 158（第12図　図版６）

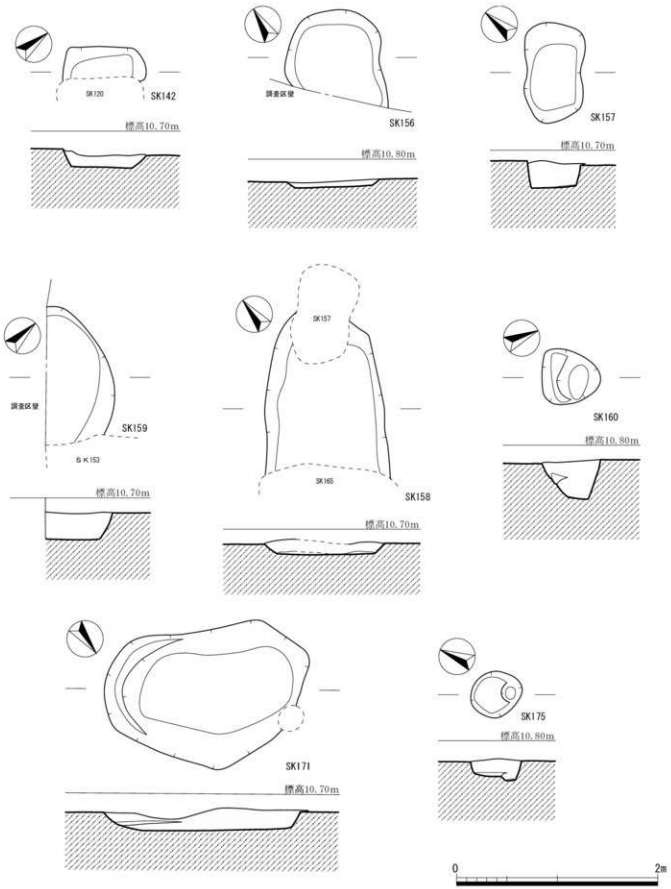
調査区中央南に位置する楕円形土坑で、北をＳＫ157、南をＳＫ165によって削平される。長軸1.60 m以上、短軸1.20 m、深さ0.18 mを測る。断面は緩やかに立ち上がる逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗、陶器の急須蓋等が出土しており19世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 159（第12図）

調査区中央南に位置する不整円形土坑で、南半部が調査区外に伸び、東をＳＫ153により削平される。長軸1.38 m以上、短軸0.68 m以上、深さ0.32 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の瓶等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 160（第12図）

調査区中央南に位置する不整形土坑で、長軸0.58 m、短軸0.56 m、深さ0.40 mを測る。南半



第12図　ＳＫ142・156・157・158・159・160・171・175 実測図(1/40)

に段を有し、断面は南が緩やかに立上り、北は急角度で立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・碗、陶器の瓶、軒丸瓦、ガラス瓶等が出土しており 19 世紀半ば以降に位置づけられる。

ＳＫ 171（第 12 図　図版６）

調査区中央に位置する不整形土坑で、北側の一部をピットにより削平される。長軸 2.04 m、短軸 1.39 m、深さ 0.22 mを測る。南に段を有し、断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿・瓶、陶器の埦・瓶、土鈴等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 175（第 12 図　図版６）

調査区中央南に位置する円形土坑で、長軸0.49m、短軸0.45m、深さ0.16mを測る。南にピット状の堀込を有し、断面は垂直に立上る逆台形を呈す。土坑内に陶器製の甕が据えられており、便槽と考えられる。埋土中より磁器の碗、陶器のハマ等が出土しており 18 世紀代に位置づけられる。

ＳＫ 180（第 13 図　図版６）

調査区中央に位置する長方形土坑で、一部にピットによる削平を受ける。長軸 1.86 m、短軸 1.42 m、深さ 0.27 mを測る。長軸両端に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿・瓶、陶器の急須蓋、土製品の鳩笛・土人形等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ 190（第 13 図　図版６）

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.92 m、短軸 1.29 m、深さ 0.85 mを測る。断面は垂直に近く立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の広東碗・碗・皿・仏飯器、陶器の鉢・擂鉢等が出土しており 18 世紀末から 19 世紀前半に位置づけられる。埋土中より多くの陶磁器が出土していることから、最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。

ＳＫ 208

調査区東端位置するＬ字状に屈曲する方形土坑で、遺構の大半は第 31 次調査区（ＳＫ 21）に位置する。遺構の詳細は第 31 次調査において述べる。第 30 次調査の埋土中からは、磁器の碗・皿・鉢、朝妻焼の皿、陶器の埦・皿等が出土している。

ＳＫ 211（第 13 図）

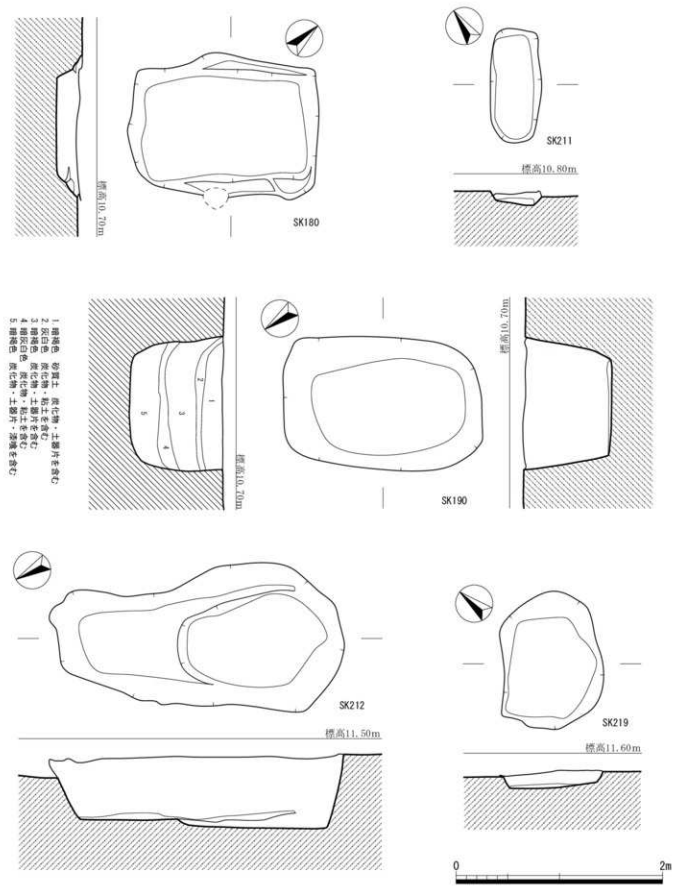
調査区東、ＳＤ 209 内に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.11 m、短軸 0.50 m、深さ 0.14 mを測る。ＳＤ 209 による削平を受ける。底面は東に向かいやや傾斜し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・栓等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 212（第 13 図　図版７）

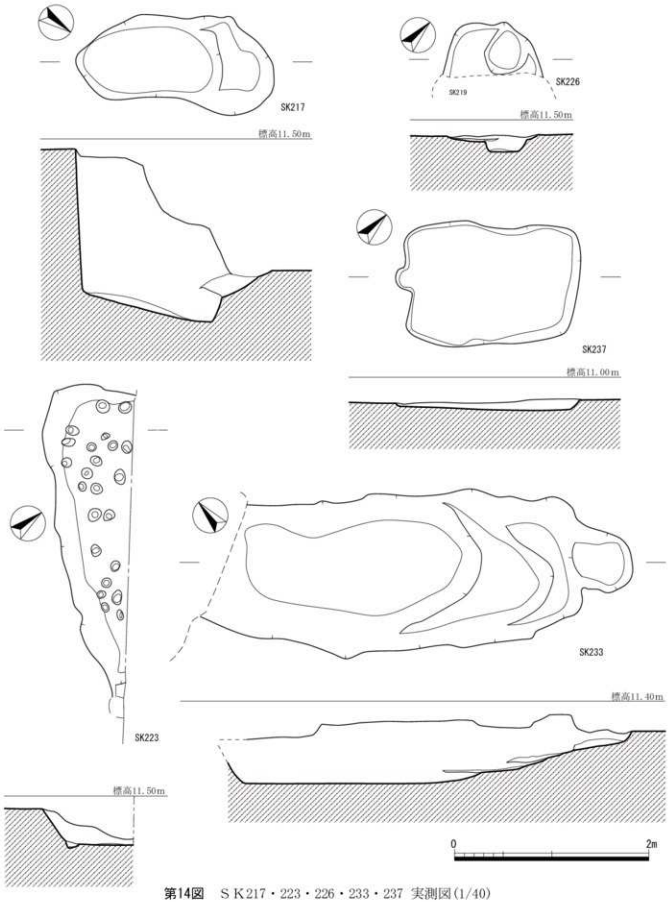
調査区南東に位置する不整形土坑で、ＳＤ 200 を切る。長軸 2.80 m、短軸 1.41 m、深さ 0.74 mを測る。北半から南東にかけ段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・碗・皿、陶器の急須蓋・平瓜、硯等が出土しており 19 世紀半ばから後半に位置づけられる。

ＳＫ 217（第 14 図　図版７）

調査区南東部、屋敷境の段差部分に位置する不整形土坑で、ＳＫ 271 を切る。長軸 2.04 m、短軸 1.02 m、深さ 1.86 mを測る。北側に段を有し、断面は逆台形を呈す。屋敷境の段差部分に掘り



第13図　ＳＫ180・190・211・212・219 実測図(1/40)



第14図　ＳＫ217・223・226・233・237 実測図(1/40)

込まれた土坑で、上段武家屋敷からの排水関連の土坑である可能性が考えられる。埋土中より磁器の碗、陶胎の皿、陶器の埦・擂鉢、ガラス製簪等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

ＳＫ219（第13図　図版７）

調査区南東に位置する不整形土坑で、ＳＡ213に上面を削平され、ＳＫ226を切る。長軸1.34ｍ、短軸0.96ｍ、深さ0.17ｍを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の鍋等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。

ＳＫ223（第14図　図版７）

調査区南東に位置する不整形土坑で、北側の大半が調査区外に伸びると考えられる。長軸3.15ｍ以上、短軸0.94ｍ以上、深さ0.42ｍを測る。断面は逆台形を呈す。底面全体より小ピットが23基検出されている。ピットの径は10～20㎝程度で、深さは5から10㎝程度である。埋土中より磁器の端反碗・広東碗・碗、陶器の土瓶等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。

ＳＫ226（第14図　図版７）

調査区南東に位置する不整形土坑で、南半をＳＫ219に削平され、北ピット状の堀込を有す。長軸0.55ｍ以上、短軸0.96ｍ、深さ0.19ｍを測る。断面は逆台形を呈すと考えられるが遺存状況が悪く定かではない。埋土中より磁器の合子片等が出土しているが、所属時期は不明である。

ＳＫ233（第14図　図版７）

調査区南東に位置する不整形土坑で、北半を撹乱により削平される。長軸4.47ｍ以上、短軸1.76ｍ、深さ0.72ｍを測る。南側に階段状のステップを３段有す。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・広東碗・碗・碗蓋、陶器の埦・瓶・擂鉢等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。遺物出土量の多さから、最終的に廃棄土坑として利用されたと考えられるが、階段状のステップが敷設されていることから、本来は穴倉であった可能性が高い。

ＳＫ237（第14図）

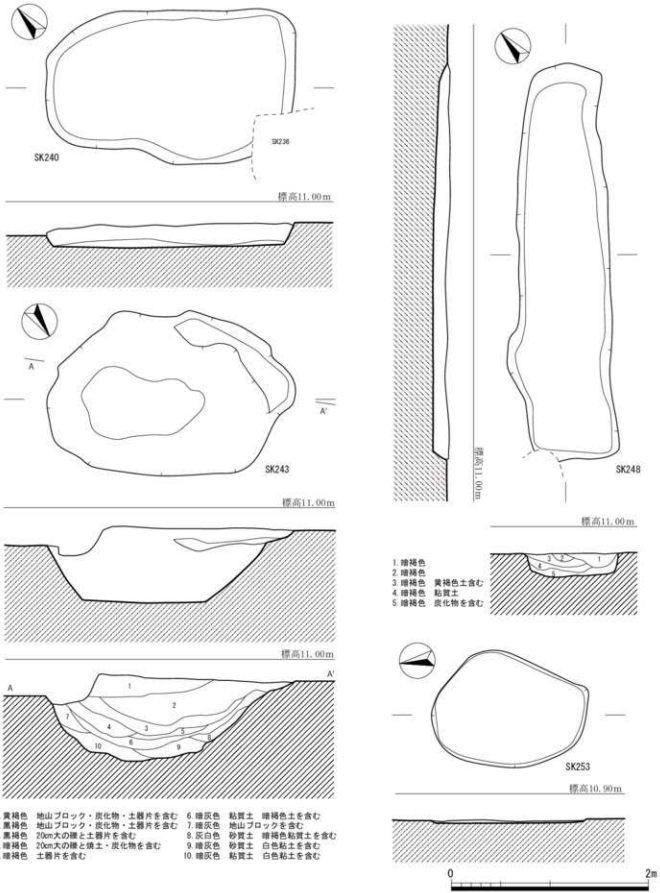
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、西側短軸に円形の張出を有す。長軸18.9ｍ、短軸1.29ｍ、深さ0.10ｍを測る。断面は逆台形を呈し、底面は西から東へ僅かに傾斜する。埋土中より陶磁器の細片が出土しているが、所属時期は不明である。

ＳＫ240（第15図）

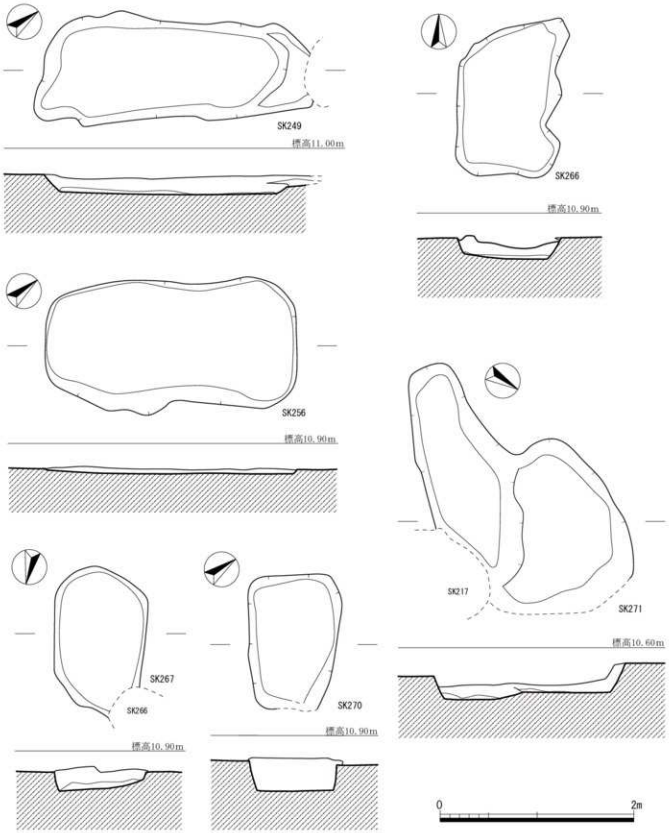
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、南西隅を土坑により削平される。長軸2.53ｍ、短軸1.57ｍ、深さ0.28ｍを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の小坏・仏飯器、陶器の埦、土師質の灯明皿等が出土しており18世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ243（第15図　図版７）

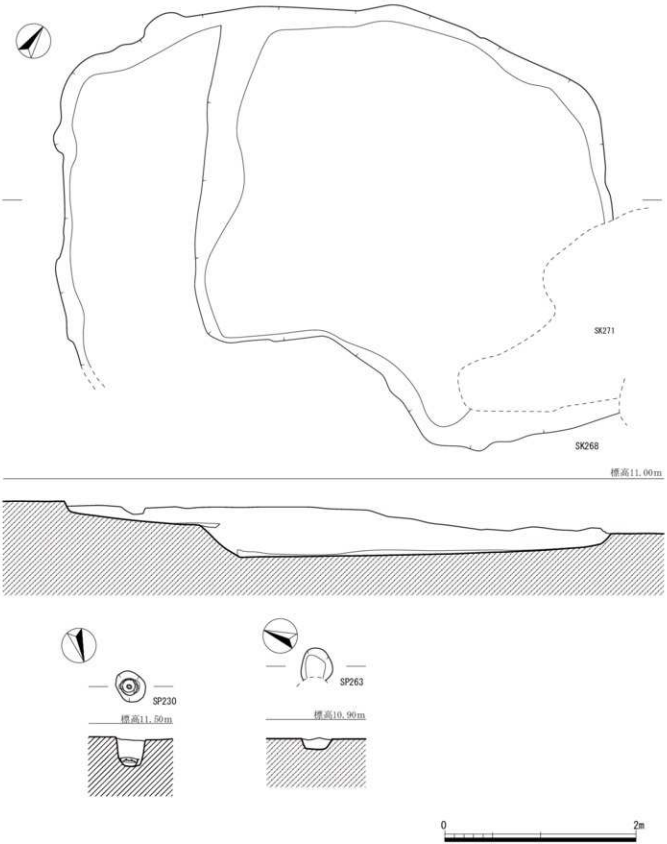
調査区南に位置する不整形土坑で、長軸2.51ｍ、短軸1.67ｍ、深さ0.86ｍを測る。西に段を有し、断面は緩やかに内湾しながら立上る逆台形を呈す。埋土中より陶器の埦・皿の細片が確認され17世紀半ばに位置づけられる。その他、弥生土器・土師器土鍋などが出土しており、埋没状況はＳＫ174に類似する。



第15図　ＳＫ240・243・248・253 実測図(1/40)



第16図　ＳＫ249・256・266・267・270・271実測図(1/40)



第17図　ＳＫ268、SP230・263実測図(1/40)

ＳＫ 248（第 15 図　図版７）

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、南西隅を土坑により削平される。長軸 4.03 m、短軸 1.05 m、深さ 0.23 mを測る。断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・仏飯器・手塩皿、軒丸瓦等が出土しており 18 世紀前半以降に位置づけられる。

ＳＫ 249（第 16 図）

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、北端部を土坑により削平される。長軸 2.74 m以上、短軸 1.14 m、深さ 0.22 mを測る。北に段を有し、断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿等が出土しているが出土量は多くない。ＳＫ248 と軸を揃えて近接するが、出土遺物は18世紀後半に位置づけられ、やや後出する。

ＳＫ 253（第 15 図）

調査区中央南に位置する不整形土坑で、ＳＫ 256 の上面を削平する。長軸 1.57 m、短軸 1.18 m、深さ 0.05 mを測る。断面形は遺存状況が悪く不明である。埋土中より磁器の小碗、土師質の灯明皿等が出土しており 18 世紀前半以降に位置づけられる。

ＳＫ 256（第 16 図）

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、上面をＳＫ 253 により削平される。長軸 2.59 m、短軸 1.39 m、深さ 0.16 mを測る。断面形は遺存状況が悪く不明である。埋土中より磁器の碗、陶器の皿等が出土しており 17 世紀後半に位置づけられる。

ＳＫ 266（第 16 図）

調査区南に位置する不整形土坑で、ＳＫ 268 の上面とＳＫ 267 を切る。長軸 1.64 m、短軸 1.10 m、深さ 0.28 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の塊・皿、土師質の灯明皿・土鍋等が出土しており 18 世紀前半以降に位置づけられる。

ＳＫ 267（第 16 図）

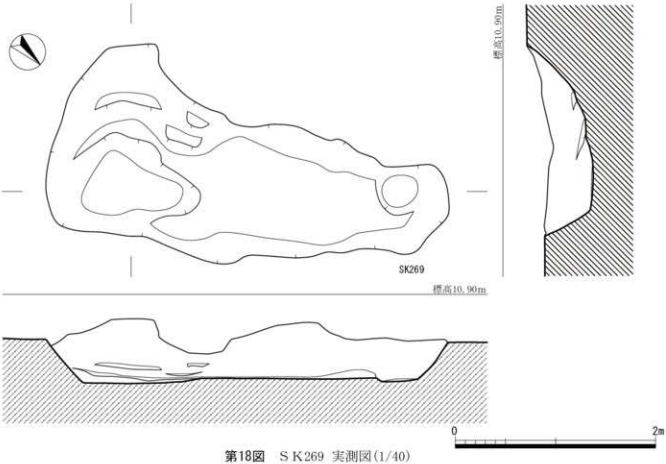
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、北西隅をＳＫ266に削平され、ＳＫ268の上面を切る。長軸1.56m以上、短軸0.95m、深さ0.25mを測る。底面は、西から東へ緩やかに傾斜し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿、陶器の皿等が出土しており18世紀前半以降に位置づけられる。

ＳＫ 268（第 17 図　図版７）

調査区南に位置する不整形土坑で、上面をＳＫ266・267等の土坑やピットに削平され、西隅をＳＫ271により削平される。長軸4.02m、短軸1.96m、深さ0.65mを測る。西から南にL字状の段を有し、断面は緩やかに内湾しながら立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の小坏・壷・擂鉢、土師質の灯明皿、土鈴、軒丸瓦等が出土しており18世紀半ば以降に位置づけられる。土坑は、武家屋敷境のコーナー付近に位置しており、周辺は土坑や溝が複雑に切りあっている。位置的に排水施設に伴うものと考えられるが、水性堆積の土壌や粘土、砂等は確認できなかった。

ＳＫ 269（第 18 図）

調査区南東に位置する不整形土坑で、ＳＫ 270 を切る。長軸 4.02 m、短軸 1.96 m、深さ 0.66



第18図　ＳＫ269 実測図(1/40)

mを測る。南に階段状の段を有し、南端と北端にピット状の堀込を有す。断面は緩やかに内湾し立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の埦・瓶、土鈴等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

ＳＫ 270（第 16 図）

調査区南東に位置する方形土坑で、南東部をＳＫ 269 により削平される。長軸 1.39 m以上、短軸 0.89 m、深さ 0.36 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・水滴、陶器の壷等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

ＳＫ 271（第 16 図　図版８）

調査南東に位置する不整形土坑で、東部をＳＫ 217 により削平される。長軸 2.82 m以上、短軸 1.50 m以上、深さ 0.50 mを測る。北側に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の皿等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。土坑は武家屋敷境下段の北東隅に位置し、排水施設に関連する遺構の可能性があるが、粘土や水性堆積物等は確認できなかった。

ピット

ＳＰ 230（第 17 図　図版８）

調査区南東に位置するピットで、長軸 0.45 m、短軸 0.30 m、深さ 0.45 mを測る。底面に土鍋が埋設されており、胞衣壷と考えられる。19 世紀半ば以降に位置づけられる。

ＳＰ 263（第17図）

調査区南東に位置するピットで、ＳＫ 268を切り西部をピットにより削平される。長軸0.30ｍ以上、短軸0.40ｍ、深さ0.15ｍを測る。埋土中より志野焼の皿が出土した。

土間状遺構

ＳＸ 70（第19図　図版８）

調査区中央南に位置する遺構で、重機による表土剥ぎ段階で白色粘質土の広がりを確認した。粘質土の広がりは、南北3.75ｍ、東西3.8ｍで南は調査区外に伸び、東に向かい次第に減じ消失する。粘質土面には、赤色化した被熱痕跡や、円形にまとまる灰・炭の痕跡を２ヵ所検出しており、竈痕跡と考えられる。粘質土は厚いところでも数cmと遺存状況は悪い。本来は土間として東により広がり、厨の床面を構成していたと考えられる。

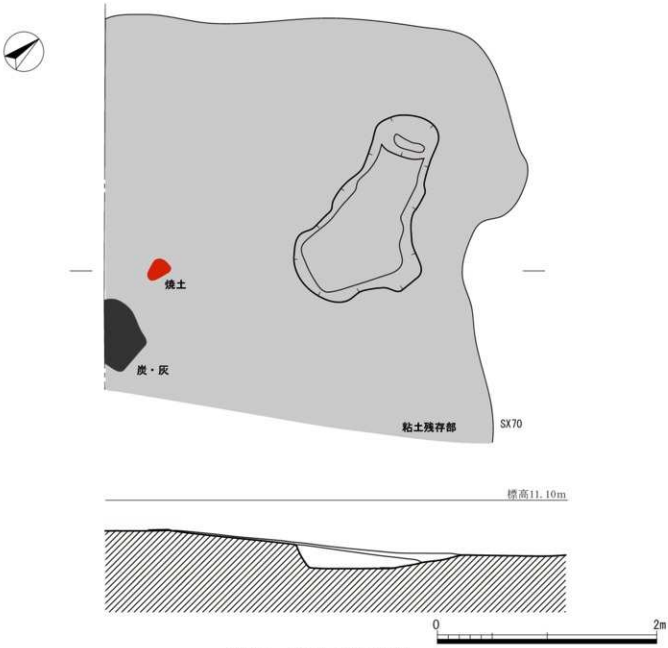
４区の調査（第４図　図版８）

学校敷地の北西隅に工事用スロープを造成することに伴い確認調査を行ったが、調査対象地の2/3は旧校舎の基礎で削平されており、残り1/3部分からは溝・土坑を確認した。遺構検出地山は褐色土の混入する造成土であったため、重機により堀下げを行ったが、４ｍ近く掘削しても地山に達しなかった。１～３区で検出したＳＤ62の延長部分に相当すると考えられる。

２．出土遺物

今回の調査では、近世陶磁器を中心として、土師質土器・土製品・石製品・瓦や西洋陶器・中国産磁器などが出土している。また、少量ながら弥生土器・須恵器・土師器・古瓦・輸入陶磁器等が出土している。出土遺物の総量は、パンコンテナー29箱である。以下に特筆すべき遺物について述べる。なお、法量等については、遺物観察表を参照されたい。

27・28は、ＳＤ 209出土品で、朝妻焼の碗である。高台内に「朝」の銘が施される。126・130は、ＳＫ５出土品であり、126は清朝磁器の碗蓋で、内外面に捻花文を施す。130は西洋陶器皿で、立上りに段を有し、緩やかに内湾し口縁部に至る。口縁部周辺には蔓バラが廻り、見込部分には、西洋の風景と騎馬人物および３人の人物が描かれている。裏面には窯名等の印・銘は描かれていないが、アラビア数字の３と思しき文字が書かれている。19世紀前半代のイギリス製の陶器皿と考えられる。153は、ＳＫ 37出土磁器瓶の底部で、高台内に「トア」と墨書が書かれている。182は、ＳＫ 90出土の陶器製灰入で口縁端部に剥落が目立つ。灰落しとして利用されたと考えられる。高台見込に「御ハタ」との墨書が書かれており、久留米藩の旗に関連する役職に関連する遺物と考えられる。188は、ＳＫ95出土の朝妻焼の碗であり、高台内に「朝」の銘が施される。203は、ＳＫ 100出土の清朝磁器碗である。内外面に霊芝文を施す。226は、ＳＫ 131出土の清朝磁器碗である。外面に霊芝文を施す。292は、ＳＫ 208出土の朝妻焼陶胎染付の皿で、高台内に「朝」の銘が施される。321は、ＳＫ 212出土の陶製ハマで、両面に墨書が認められる。表面には「寿」の漢字が、裏面には「のろいは」と平仮名で書かれており、裏面の仮名が「呪い」を意味するのであれば、占い等の呪術系の道具と考えられる。339は、ＳＫ 223出土の清朝磁器皿で内外面に草花文、高台



第19図　ＳＸ70 実測図(1/40)

見込に異体字の銘が施される。348 ～ 351、362 はＳＫ 233 出土の清朝磁器。348・349 は碗で、外面に捻花・霊芝文、内面見込に二重圏線と花が施され、高台内部に異体字銘が施される。350・351 は小碗で、350 は外面に雲と蓮弁、内面見込に二重圏線と柘榴、高台見込に「成化年製」銘が施される。いわゆる蛍手の技法が用いられており、透かし状となっている。351 は外面に雲と柘榴文が施される。362 は鉢で、外面に花唐草と蓮弁文、内面に唐草、内面見込に草花文を施し、高台見込に異体字銘を施す。379 はＳＫ 233 出土の端反碗で、漆継の痕跡を残す。511 はＳＫ 271 出土の朝妻焼の碗で、高台内に「朝」の銘が施される。519 はＳＰ 262 出土の志野焼皿で、円形の見込から段を有し立上り口縁部は角皿となる。内面には鉄釉による線描きが施される。高台はなく平底で、底面接地部の釉薬は剥ぎ取られている。

３．総括

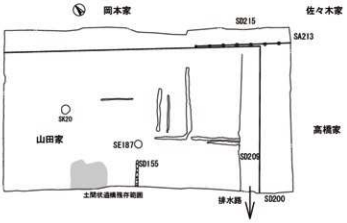
（１）京隈小松原地区の武家屋敷の造成

久留米城下の整備は、元和７年（1621）に久留米藩主として久留米に入府した、有馬豊氏によって開始される。調査地が位置する京隈小路の造成は翌元和８年に京隈村の住人を移し、武家屋敷の造成を開始し、寛永９年（1632）に一定の整備が完了している。しかしながら、調査地のある京隈小松原は、未だ着手されておらず、小松原小路に武家屋敷が完成し津田勘兵衛他10名の武士が屋敷を移すのは延宝２年（1674）のことである。したがって小松原小路の完成は京隈小路の完成より40年ほど遅れることとなる。調査地となった京町小学校の敷地は、４軒の武家屋敷地に相当し、学校を挟んで東西にある南北道路及び北に位置する東西道路は江戸時代の道を踏襲している。今回の調査では、北及び東に位置する武家屋敷地は南西に位置する敷地より高くなっており、段造成が行われている。『天保年間久留米城下絵図』（以下天保図）では、各屋敷の門は北西に位置する岡本家は北側、東に位置する佐々木・高橋の両家は東側、南西に位置する山田家は西側の道に向かい門を構えている状況が窺える。現在の京町小学校と西側南北道路の敷地には1.5～２m程の高低差が存在し、西側道路が低くなっている。今回の調査では、この西側道路に門を構える山田家の敷地は、他の屋敷地より１～1.4m程度低くなっており、切土造成を行うことによって西側道路の高さに敷地を合わせて造成した状況を示している。京隈小路を始めとする久留米城下の武家屋敷は、段造成を行い階段状の屋敷地が広がっていたと考えられるが、ここにもその痕跡を認めることができる。また、調査地内では屋敷地造成に伴い、埋め戻された遺構も確認されている。ＳＤ62やＳＫ174・ＳＫ256がそれで、出土遺物から17世紀後半代には埋められていた状況を示す。特にＳＤ62については、南から北に向かい傾斜する溝で北端の深さは２mを超えており、造成当時は丘陵上からの排水路か谷が存在していたと考えられ、小松原小路造成により埋め立てられている。このように見ると、武家屋敷地の造成は、埋立工事や切土・盛土造成を行う大規模事業であり、京隈小松原小路地区では、久留米城に近い京隈小路の造成から始まり、徐々に規模を拡大しながら小松原小路へと造成範囲を広げていった状況が、発掘調査からも見受けられる。

（２）山田家敷地の天保～幕末期の利用状況

第30次調査地点の大半は、天保図によると山田家の敷地に位置している。山田家は、馬廻役で200石の家柄で、幕末期まで当地に居を構えており、幕末期の当主は山田稜養である。今回の調査では、18世紀末から19世紀の遺構が多く検出されており、屋敷地の利用状況が推測できる。先述のように、山田家の敷地は切土造成によって西に門を構え、北及び東の屋敷地からは一段低い立地状況を示す。そのため、東の屋敷地との境には南北溝ＳＤ209が掘り込まれ、北から南へと排水を行っている。この排水溝はそのまま南の戸田・梶村両家の屋敷境を抜け排水されたと考えられる。北側屋敷境の段差部分には明瞭な排水施設が確認できないことから、上段の岡本家の排水は北へ向かいなされていた可能性がある。調査区南西部には土間状の白色粘土が検出された区画があり、粘土上には被熱し円形に赤色化した部分や炭・灰が検出された部分があり厨と想定される。また厨の東

には井戸（ＳＥ187）があり、水場と厨が隣接して位置している。この様な厨と井戸の配置は、現存する武家屋敷である坂本繁二郎生家にも見受けられる。母屋等の建物礎石は確認されていないが、厨の周辺に存在すると推定されるため、検出遺構の少ない、北西側か調査区外の南西側に屋敷が広がっていたと考えられる。屋敷地の裏庭となる東部には廃棄土坑等が掘り込まれている。また、南部分は比較的遺構密度が低く、時期不明ながら浅い溝が平行して並んでおり、菜園等の畑地として利用された可能性があるが定かではない。今回の調査では、門の位置は確定できていないが、門に近い北西側の空間に屋敷地を置き、厨に近接して井戸を配置する状況が確認できた。また、裏庭に廃棄土坑を掘り、高低差のある東側には排水路を設置するなど屋敷地の利用状況を垣間見ることができた。



第20図　屋敷境と空間利用天保～幕末期（1/500）

（３）山田稄養と幕末期の出土遺物

幕末の山田家当主、山田稄養は、元治元年（1864）小倉戦争に従軍、慶応３年（1867）幕府海軍操練所に入所し、勝海舟の教えを受ける。帰藩後は、久留米藩海軍に所属し雄飛丸・千歳丸の乗組員として戊辰戦争に従軍した。また明治維新後はハーバード大学法学部に入学し、帰国後は横浜で起業し、後に日本貿易協会会長に就任する。幕末の動乱期を海軍操練所や長崎へ行き来し、久留米藩海軍を支えた稄養であるが、その往来の証左となるような遺物が出土している。ＳＫ5より出土した西洋陶器皿（127）がそれである。また、ＳＫ5その他の遺構から、清朝磁器の碗・皿・鉢等が多く出土しており、その数は破片資料も含めると 31 点に上る。これらは、長崎で入手し、久留米に持ち込まれたと考えられ、幕末期に各地を往来し、活躍した久留米藩士にふさわしい遺物が出土したといえる。

≪参考文献≫

『久留米人物誌』 1981 年　篠原　正一　久留米人物誌刊行委員会

『米府年表』 文化２年～明治 15 年（1805 ～ 1882）　戸田　熊次郎　（『久留米市誌』下付録収録を参照）

第１表　第30次調査出土遺物観察表１

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉薬	文様・調整				特徴	製作地・時土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	染付　釉薬	外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版9	1	SD2	磁器	碗	－	(3.9)	(2.6)	染付	草	－	－	砂付着	－	肥前	18C前	201605 000001
図版9	2	SD2	土師質	小皿	－	3.3	1.5	－	ナデ	ナデ	－	－	情況後底部穿孔	－	－	201605 000002
図版9	3	SD2	土師質	灯明皿	7.2	4.5	10.2	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煤付着	－	－	201605 000003
図版9	4	SD2	土師質	灯明皿	7.4	3.8	1.7	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煤付着	－	－	201605 000004
図版9	5	SD62	磁器	皿	－	(8.2)	1.6	染付	二重圏線 不明	－	圏線　角？	－	－	肥前	17C中	201605 000150
図版9	6	SD62下層	磁器	小坏	(5.4)	2.5	3.1	染付	圏線　舟	－	－	－	－	肥前	17C中	201605 000164
図版9	7	SD62下層	磁器	皿	(15.2)	(10.2)	2.6	染付	圏線　花鹿草	貝　青海波	－	圏線	－	肥前	17C中	201605 000165
図版9	8	SD62下層	陶器	皿	－	4.6	1.7	灰釉	－	－	砂目3	無釉	－	肥前	17C前	201605 000166
図版9	9	SD62下層	陶器	壺	－	(4.6)	(2.2)	灰釉	－	－	砂目3	－	－	肥前	17C前	201605 000147
図版9	10	SD64	磁器	碗	(9.8)	3.6	5.5	色絵	花弁	－	－	砂付着	－	肥前	17C後	201605 000189
図版9	11	SD64	磁器	碗	(7.8)	3.8	5.0	白磁	－	－	－	－	口銹	肥前	17C後	201605 000186
図版9	12	SD64	磁器	小坏	6.7	2.4	3.3	白磁	－	－	－	砂付着	－	肥前	17C中	201605 000187
図版9	13	SD105	磁器	小皿	9.4	5.3	2.2	染付	－	草花	フリモノ	砂付着	－	肥前	17C後	201605 000332
図版9	15	SD105	磁器	手塩皿	(8.0)	(4.2)	1.8	白磁	－	鹿草　型押	菊型押	－	型物	肥前	17C後～18C前	201605 000333
図版9	16	SD105	磁器	仏飯器	－	3.9	(4.2)	白磁	－	－	－	－	－	－	17C後～18C前	201605 000335
図版9	17	SD105	陶器	壺	－	3.6	5.2	透明	－	－	－	無釉「轟水」	関西系	肥前	17C後	201605 000336
図版9	18	SD105	瓦質	鉢	－	－	(5.5)	－	花　透かし	－	－	－	－	－	－	201605 000339
図版9	19	SD200	陶器	擂鉢	－	6.5	4.9	褐釉	－	12本1単位溝	－	糸切　無釉	－	－	－	201605 000604
図版9	20	SD200	陶器	壺	5.2	7.0	3.1	褐釉	－	無釉	－	－	－	－	－	201605 000605
図版9	21	SD200	陶器	鍋	17.5	8.7	7.4	透明釉	無釉	－	－	－	片口　把手	－	19C前	201605 000610
図版9	22	SD200	陶器	鍋	(16.2)	7.4	7.6	褐釉	飛鉋 半無釉	－	－	－	片口	－	19C前	201605 000609
図版9	23	SD200	陶器	ハマ	5.4	－	0.4	－	－	－	－	－	－	－	－	201605 000606
図版9	24	SD200	陶器	ハマ	6.9	－	(1.3)	－	－	－	－	－	3足残	－	－	201605 000607
図版9	25	SD209上層	磁器	端反碗	(11.6)	(5.4)	5.5	染付	格子 梅家屋	格子	圏線　不明	－	－	肥前	19C前中	201605 000647
図版9	26	SD209上層	磁器	小碗	(8.0)	3.4	5.7	染付	山水楼閣	－	－	－	－	肥前	19C前中	201605 000649
図版9	27	SD209上層	磁器	碗	－	4.1	(4.8)	染付	草花　蝶	－	－	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605 000650
図版9	28	SD209上層	磁器	碗	－	3.6	(3.4)	染付	松竹梅	－	－	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605 000651
図版9	29	SD209上層	磁器	小皿	(8.2)	4.2	2.5	染付	－	岩　草花	－	－	型物	肥前	19C前～中	201605 000653
図版9	30	SD209上層	磁器	小皿	(8.5)	3.9	2.6	染付	－	亀　渦	－	－	型物 灯明皿	肥前	19C前～中	201605 000654
図版9	31	SD209上層	磁器	小皿	8.9	4.1	2.4	白磁	－	菊花型押	－	－	型物	肥前	19C前～中	201605 000655
図版9	32	SD209上層	磁器	銚子	2.2	4.4	12.8	染付	草花	－	－	－	－	肥前	19C中	201605 000659
図版9	33	SD209上層	磁器	皿	―	―	―	白磁	－	菊花型押		「朝」	型物	筑後	18C前	201605 000652
図版9	34	SD209上層	陶器	急須蓋	5.6	1.9	1.5	透明釉	鉄釉流	無釉	－	糸切	－	－	19C中	201605 000660
図版9	35	SD209下層	磁器	碗	10.2	4.2	6.2	染付	藤コンニャク印刊	フリモノ	－	渦福	－	肥前	18C前	201605 000669
図版9	36	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	3.8	5.4	染付	圏線　菊五葉・若葉コンニャク印刊	－	－	圏線　略字	－	肥前	18C前	201605 000675
図版9	37	SD209下層	磁器	碗	(10.2)	(4.0)	5.2	染付	圏線　五葉若葉・花コンニャク印刊	－	－	圏線「大明年製」	－	肥前	18C前	201605 000673
図版9	38	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	4.4	5.6	染付	圏線　花鹿草	－	－	二重角福	－	肥前	18C前	201605 000671
図版9	39	SD209下層	磁器	碗	10.1	4.2	5.3	染付	圏線　四方唐牡丹	－	－	渦福	－	肥前	18C前	201605 000665
図版9	40	SD209下層	磁器	碗	10.0	3.9	4.7	染付	菊花	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000686
図版9	41	SD209下層	磁器	碗	(9.4)	3.8	5.1	染付	鳥　稲穂	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000679
図版9	42	SD209下層	磁器	碗	(9.6)	(3.8)	5.2	染付	松竹梅	－	－	二重角福	－	肥前	18C前	201605 000678

第2表　第30次調査出土遺物観察表2

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			施釉	釉薬	文様・調整					製作地・胎土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）			外面	内面	見込み	底面・高台内印刻等	特徴			
図版9	43	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	(4.0)	5.2	染付		格子　波　花	－	－	－		肥前	18C前	201605 000680
図版9	44	SD209下層	磁器	碗	10.8	4.6	6.1	染付		草花　鳥	－	－	圏線「大明年製」？	－	肥前	18C前	201605 000676
図版9	45	SD209下層	磁器	碗	10.2	4.2	5.2	染付		圏線　唐草花コンニャク印刻	－	－	角福？	くらわんか手	肥前	18C中	201605 000683
図版9	46	SD209下層	磁器	碗	9.6	4.1	5.0	染付		圏線　松竹梅	－	－	渦福？	くらわんか手	肥前	18C中	201605 000672
図版9	47	SD209下層	磁器	碗	8.5	4.4	5.1	白磁		－	－	－	蛇ノ目高台	口縁釉剥	肥前	17C末～18C前	201605 000692
図版9	48	SD209下層	磁器	碗蓋	－	4.0	(2.4)	染付		草花	四方柳	二重圏線　五弁花コンニャク印刻	－	－	肥前	18C中～後	201605 000699
図版9	49	SD209下層	磁器	小坪	(5.4)	2.2	3.6	染付		海老	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000693
図版9	50	SD209下層	磁器	小坪	(6.2)	2.5	3.4	色絵		蝶	－	－	－	－	肥前	17C末～18C前	201605 000697
図版9	51	SD209下層	磁器	小猪口	5.5	2.6	4.1	染付		梅コンニャク印刻	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000698
図版9	52	SD209下層	磁器	皿	11.8	3.9	3.4	染付		－	線	蛇ノ目釉剥	無釉	－	肥前	18C中～後	201605 000702
図版9	53	SD209下層	磁器	紅皿	5.1	3.0	1.2	白磁		菊花型押	－	－	無釉	型物	肥前	－	201605 000706
図版9	54	SD209下層	磁器	蓋	8.5	－	2.8	青磁		青磁釉	透明釉	－	－	－	肥前	18C中～後	201605 000712
図版9	55	SD209下層	磁器	蓋	5.1	－	1.6	染付		花唐草	－	－	－	－	肥前	18C中～後	201605 000711
図版9	56	SD209下層	磁器	仏飯器	－	4.5	5.9	染付		笹	－	－	無釉	－	肥前	18C中	201605 000709
図版9	57	SD209下層	磁器	仏飯器	(9.0)	(4.5)	6.5	染付		圏線　線	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 000708
図版9	58	SD209下層	磁器	鉢	25.1	10.4	10.2	染付		二重圏線　唐　草花	二重圏線　雷　鳴	二重圏線　鳥	二重圏線　雲紋	色絵素地　口縁波花	肥前	18C前～後	201605 000667
図版10	59	SD209下層	陶器	壺	－	(4.2)	(4.4)	透明釉		丸	白土ハケ	－	－	瀬川系	肥前	18C中	201605 000714
図版10	60	SD209下層	陶器	壺	(10.8)	4.2	5.9	透明釉		－	白土ハケ	－	－	瀬川系	肥前	18C中	201605 000715
図版10	61	SD209下層	陶器	壺	(9.2)	4.2	6.2	透明釉		白土ハケ	白土ハケ	－	－	－	肥前	18C中	201605 000716
図版10	62	SD209下層	陶器	壺	(10.2)	4.1	5.4	褐釉		－	－	－	－	天目	－	18C前～中	201605 000721
図版10	63	SD209下層	陶器	壺	(9.2)	4.0	4.3	透明釉		－	山水	－	無釉「小松久」	関西系	肥前	17C後	201605 000722
図版10	64	SD209下層	陶器	壺	－	4.8	(3.6)	透明釉		－	－	－	胎土目	－	－	17C前～中	201605 000724
図版10	65	SD209下層	陶器	壺	(9.6)	(3.6)	4.8	透明釉		－	山水？		無釉	関西系	肥前	17C末～18C前	201605 000727
図版10	66	SD209下層	陶器	小壺	(7.0)	2.0	3.7	透明釉		菊花	－	－	無釉	関西系	肥前	17C後	201605 000725
図版10	67	SD209下層	陶器	小壺	7.1	3.6	4.3	褐釉		－	－	－	無釉	－	肥前	18C前	201605 000726
図版10	68	SD209下層	陶器	皿	－	7.8	(4.8)	灰釉		白土ハケ	白土ハケ	－	無釉	－	肥前	17C前～中	201605 000729
図版10	69	SD209下層	陶器	皿	(12.4)	4.2	3.6	灰釉		－	－	蛇ノ目釉剥	無釉	口縁内湾	肥前	18C前	201605 000728
図版10	70	SD209下層	陶器	皿	(18.0)	(9.0)	5.6	透明釉		－	－	蛇ノ目釉剥	無釉	高高台	肥前	18C前	201605 000664
図版10	71	SD209下層	陶器	皿	(17.0)	(6.8)	5.2	灰釉		－	ハケ	蛇ノ目釉剥	無釉	脚付	肥前	17C末～18C前	201605 000730
図版10	72	SD209下層	陶器	皿	(15.2)	5.9	6.5	灰釉		－	ハケ	蛇ノ目釉剥	無釉	口縁玉縁	肥前	17C末～18C前	201605 000731
図版10	73	SD209下層	陶器	蓋	8.4	3.8	3.0	透明釉		－	無釉	－	無釉　糸切	－	－	－	201605 000733
図版10	74	SD209下層	陶器	仏飯器	(7.0)	3.6	4.8	透明釉		－	白土ハケ	－	無釉	瀬川系	肥前	18C前	201605 000732
図版10	75	SD209下層	陶器	壷	－	(5.6)	(5.6)	褐釉		－	無釉	－	－	－	－	－	201605 000738
図版10	76	SD209下層	陶器	鉢	－	11.2	(12.2)	褐釉		ハケ波状	－	砂目2	－	堀木鉢転用	肥前	17C後	201605 000739
図版10	77	SD209下層	土師質	小皿	(7.2)	3.5	1.3	－		ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－	201605 000740
図版10	78	SD209下層	土師質	灯明皿	8.1	4.4	1.4	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 000741
図版10	79	SD209下層	土師質	灯明皿	(9.2)	5.1	1.7	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 000742
図版10	80	SD209下層	土師質	火鉢	(19.4)	(15.6)	11.5	－		ナデ	ナデ　ハケ	ハケ	－	－	－	－	201605 000751
図版10	81	SD209下層	瓦	軒丸瓦	15.5	(8.2)	1.8	－		三巴	－	－	－	－	－	－	201605 000752
図版10	82	SD209下層	瓦	軒平瓦	(17.3)	(5.9)	1.7	－		蓮華	－	－	－	－	－	－	201605 000753
図版10	83	SD209下層	土製品	土人形	(4.7)	3.8	0.5	－		大黒天型	－	－	－	型物	－	－	201605 000749
図版10	84	SD209下層	土製品	軒丸瓦「形」	(9.9)	6.7	0.7	－		－	－	－	－	張型紙手	肥前	－	201605 000743

第３表　第30次調査出土遺物観察表３

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	釉付 釉薬	文様・調整 外面	文様・調整 内面	文様・調整 見込み	底面・高台内 印銘等	特徴	製作地・窯址	時期	登録番号
図版10	85	SB209下層	土製品	土鈴	(6.5)	5.7	0.4	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000744
図版10	86	SB209下層	土製品	土鈴	(5.3)	3.9	0.3	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000745
図版10	87	SB209下層	土製品	土鈴	(3.5)	3.6	0.3	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000746
図版10	88	SB209下層	土製品	土鈴	(3.5)	3.9	0.5	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000747
図版10	89	SB209下層	土製品	土鈴	(4.0)	(3.2)	0.4	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000748
図版10	90	SE138	磁器	碗	(10.4)	4.2	5.9	染付	圏線　草花	－	－	略字銘	くらわんか手	肥前	18C中	201605 000371
図版10	91	SE138	陶器	小皿	9.6	4.8	3.0	掩釉	－	－	－	糸切	－	－	－	201605 000379
図版10	92	SE138	土師質	灯明皿	(7.6)	3.2	1.9	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煤付着	－	－	201605 000380
図版10	93	SE138　2層	磁器	碗	10.2	3.8	5.3	染付	圏線　丸に市松・格子	二重圏線　丸に市松・格子	丸に四方柳	－	－	肥前	18C後	201605 000364
図版10	94	SE138　2層	磁器	碗	7.6	2.5	3.9	染付	松竹梅	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 000366
図版10	95	SE138　2層	磁器	皿	9.6	3.8	5.3	白磁	－	－	－	－	－	肥前	18C後	201605 000368
図版10	96	SE138　2層	磁器	紅皿	4.5	1.6	1.5	白磁	菊花型押	－	－	－	型物	肥前	－	201605 000369
図版10	97	SE138　2層	陶器	壺	－	4.1	(3.6)	透明釉	竹？	－	－	無釉	－	肥前	17C末～18C前	201605 000376
図版10	98	SE147　下層	磁器	碗	(10.4)	4.4	5.3	染付	圏線　網	－	－	渦福	－	肥前	18C前	201605 000406
図版10	99	SE147　下層	磁器	碗	8.5	3.5	4.6	染付	芒　岩　鳥	－	フリモノ	「大明年製」	－	肥前	18C前	201605 000407
図版10	100	SE147　下層	磁器	碗	(10.2)	－	(5.4)	染付	圏線　菊花・玉葉若葉コンニャク印刊	－	－	圏線　略字銘	－	肥前	18C前	201605 000409
図版10	101	SE147　下層	磁器	碗	8.1	－	(3.2)	色絵	花　瓜？	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000411
図版10	102	SE147　下層	磁器	碗	(9.0)	－	5.4	色絵	蝶　扇　草花	－	花	－	－	肥前	18C前	201605 000412
図版10	103	SE147　下層	磁器	皿	(12.4)	(8.0)	2.9	染付	圏線　唐草	格子　花	二重圏線　五弁花コンニャク印刊	圏線「■■■製」	くらわんか手	肥前	18C中	201605 000414
図版10	104	SE147　下層	磁器	皿	(14.0)	(8.4)	4.0	染付	圏線　花唐草	松　柳　岩　青海波	二重圏線　五弁花	圏線「■■化年製」	口縁輪花	肥前	18C前	201605 000415
図版10	105	SE147　下層	磁器	蓋物	9.7	6.3	7.2	染付	圏線　五葉若葉　松　竹	－	－	－	口縁無釉	肥前	18C	201605 000417
図版10	106	SE147　下層	磁器	灰入	8.4	5.5	5.0	染付	二重圏線　山水　草花	無釉	－	－	内面鉄釉付着	肥前	18C	201605 000418
図版10	107	SE147　下層	陶器	碗	－	3.6	5.1	掩釉	白釉	－	－	－	口縁輪花	－	17C後～18C前	201605 000420
図版10	108	SE147　下層	陶器	皿	－	6.0	(3.2)	透明釉	－	－	蛇ノ目釉剥	－	被熱	肥前	17C後～18C前	201605 000425
図版10	109	SE147　下層	陶器	片口鉢	－	5.5	6.8	透明釉	－	－	蛇ノ目釉剥	無釉	－	肥前	17C後～18C前	201605 000427
図版10	110	SE147　下層	陶器	鉢	－	－	(20.1)	透明釉	白土ハケ	－	－	－	武雄系	肥前	17C後～18C前	201605 000428
図版10	111	SE147　下層	陶器	擂鉢	－	－	(5.5)	掩釉	－	11本1単位	－	－	鉄付	－	－	201605 000429
図版10	112	SE147　下層	陶器	壷	－	9.6	17.0	掩釉	輪線状釉文	無釉	－	－	－	－	－	201605 000431
図版10	113	SE147　下層	陶器	平底	6.3	4.4	3.5	－	－	－	－	糸切	煤付着	－	－	201605 000432
図版10	114	SE147　下層	土師質	灯明皿	7.0	3.8	1.4	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煤付着	－	－	201605 000433
図版10	115	SE147　下層	石製品	硯石	2.3	1.5	0.4	－	－	－	－	－	4g	－	－	201605 000436
図版10	116	SE174	磁器	碗	－	3.8	(4.5)	白磁	－	－	－	砂付着	－	肥前	17C中	201605 000484
図版10	117	SE174	陶器	擂鉢	－	(9.2)	(10.9)	－	－	－	－	糸切	－	－	－	201605 000486
図版11	118	SE187	磁器	碗	－	－	(3.3)	染付	二重圏線　鎧　鳥　鷺	－	二重圏線　鎧杏	－	－	肥前	18C後～19C前	201605 000568
図版11	119	SE187	磁器	瓶	－	－	(5.1)	染付	鎬草	無釉	－	－	－	肥前	18C後～19C前	201605 000569
図版11	120	SK4	陶器	鉢	－	－	(4.8)	灰釉	－	白土ハケ	－	－	－	武雄	17C中	201605 000006
図版11	121	SK4	陶器	瓶	－	－	(5.4)	掩釉	不明	－	－	－	型物	肥前	－	201605 000005
図版11	122	SK4	土師質	灰取	(8.3)	(6.5)	(4.4)	－	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	201605 000007
図版11	123	SK5	磁器	端反碗	9.6	3.9	5.5	染付	松葉	圏線	波波　圏線	－	－	肥前	19C中	201605 000020
図版11	124	SK5	磁器	小碗	7.1	3.6	5.6	白磁	鎬	－	－	－	－	肥前	19C中	201605 000008
図版11	125	SK5	磁器	端反碗蓋	8.1	3.7	2.6	染付	花鳥	－	鬼	－	－	肥前	19C中	201605 000009
図版11	126	SK5	磁器	碗蓋	－	－	(1.3)	青華	絵花	絵花	－	不明	清朝磁器	中国	18C末～19C前	201605 000014

第4表　第30次調査出土遺物観察表4

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉薬	文様・調整					特徴	製作地・時土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	高台・高台内印鑑等					
図版11	127	SK5	磁器	皿	(13.0)	7.0	3.7	染付	唐草	鎬唐草	松竹梅	「成化年製」	蛇目凹型高台	口縁輪花	肥前	19C前	201605000021
図版11	128	SK5	陶器	急須	6.1	6.4	10.2	透明釉	棒	－	－	亜麻	関西系	－	肥前	19C前	201605000024
図版11	129	SK5	陶器	急須	6.0	5.2	9.9	透明釉	線釉	－	－	－	関西系	－	肥前	19C前	201605000025
図版11	130	SK5	陶器	皿	25.5	14.2	2.7	コバルト	－	蓮花	イギリス風景	3	西洋陶器	イギリス	肥前	19C前	201605000015
図版11	131	SK5	陶器	擂鉢	35.7	13.6	12.2	透明釉	－	7本溝	重ね痕	－	－	－	－	－	201605000023
図版11	132	SK6	土師質	土鍋	－	－	(2.7)	－	ナデ	ナデ	－	－	玉縁	－	16C	201605000026
図版11	133	SK11	磁器	小碗	6.6	3.2	5.3	染付	水仙	輪線	－	－	－	肥前	19C中	201605000031
図版11	134	SK11	磁器	小碗	7.0	2.9	3.2	白磁	－	－	－	砂付高	－	肥前	19C	201605000032
図版11	135	SK11	陶器	急須	9.8	8.8	12.9	透明釉	白土掛流	－	－	－	美野手	筑後	19C中	201605000037
図版11	136	SK11	陶器	片口鉢	15.0	6.8	7.6	透明釉	－	－	－	高台無釉	－	－	19C中	201605000036
図版11	137	SK12	磁器	小皿	10.1	5.5	2.5	染付	唐草	鎬唐草	二重圏線五弁花	二重角福圏線	－	肥前	18C中	201605000051
図版11	138	SK12	磁器	向付	10.3	6.7	6.3	染付	網丸花	花	二重圏線五弁花	「大明成化年製」圏線	－	肥前	18C中	201605000050
図版11	139	SK12	磁器	油壺	2.5	4.3	5.9	染付	草花 蝶	－	－	－	－	肥前	18C中	201605000053
図版11	140	SK12	磁器	油壺	－	3.3	5.2	染付	松葉	－	－	－	－	肥前	18C中	201605000042
図版11	141	SK12	陶器	壺	－	4.0	(3.5)	透明釉	－	鉄釉	－	－	－	肥前	18C前	201605000040
図版11	142	SK12	陶器	片口鉢	(14.2)	－	(5.2)	透明釉	白土ハケ	白土掛流	－	－	－	肥前	18C前	201605000049
図版11	143	SK12	土師質	小皿	－	－	(1.1)	－	ナデ	ナデ	－	－	内面	－	－	201605000047
図版11	144	SK12	土師質	灯明皿	7.9	4.7	2.2	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605000052
図版11	145	SK12	瓦	軒平瓦	(10.2)	(16.1)	4.1	－	唐草	－	－	－	－	－	－	201605000046
図版11	146	SK19	磁器	小碗	(7.2)	3.5	4.8	色絵染付	雷輪 竹 印	－	－	－	－	肥前	19C	201605000059
図版11	147	SK19	磁器	小碗	－	(3.4)	(2.4)	青華	霊芝	霊芝	渦	二重圏線不明文字	清朝磁器	中国	19C前	201605000061
図版11	148	SK19	磁器	小皿	5.9	2.5	2.7	青華	－	松 鶴	－	－	－	肥前	19C中～後	201605000062
図版11	149	SK19	磁器	角皿	8.2	4.5	2.5	飴・瑠璃釉	鉄釉	瑠璃釉 菊花	菊花	－	－	瀬戸・美濃	19C中	201605000063
図版11	150	SK19	陶器	小皿	8.9	3.5	2.7	灰釉	－	花 白土象嵌	－	－	－	肥前	－	201605000065
図版11	151	SK19	陶器	急須蓋	10.8	－	1.2	透明釉	白土掛流	無釉	－	－	美野手	筑後	19C中	201605000066
図版12	152	SK21	土製品	面子	3.1	2.1	1.1	－	鶴	－	－	－	－	－	－	201605000068
図版12	153	SK35	磁器	瓶？	－	11.0	(1.8)	白磁	－	－	－	「トア」墨書	蛇ノ目凹型高台	肥前	18C末～19C	201605000073
図版12	154	SK37	磁器	碗	－	(4.0)	(2.9)	染付	草	圏線	フリモノ	－	－	肥前	19C	201605000076
図版12	155	SK40	磁器	皿	11.6	6.3	2.8	染付	松葉	月 瀑 滝	－	－	コバルト	肥前	19C	201605000077
図版12	156	SK40	磁器	皿	12.4	7.4	3.2	染付	花	花弁	松竹梅	－	蛇ノ目凹型高台コバルト型紙	口縁輪花	肥前	19C後～	201605000078
図版12	157	SK40	磁器	皿	13.2	7.2	3.8	色絵染付	唐草	花 窓に花	松竹梅	－	蛇ノ目凹型高台	口縁輪花	肥前	19C後～	201605000079
図版12	158	SK40	磁器	瓶	5.4	－	(13.3)	色絵	花 窓に唐子	－	－	－	口縁輪花	唐子 柿右衛門様式	肥前	17C後半	201605000080
図版12	159	SK40	磁器	瓶	3.3	8.7	25.3	染付	芙蓉	－	－	－	コバルト	肥前	19C後～	201605000081
図版12	160	SK40	磁器	鉢	18.5	7.8	7.9	染付	寿 福	－	－	「周一音」銘	コバルト型紙	瀬戸・美濃	19C後～	201605000082
図版12	161	SK40	陶器	片口鉢	15.4	7.3	7.1	透明釉	－	－	ハマ痕5	無釉	－	肥前	19C	201605000083
図版12	162	SK40	土師質	煙炉	18.0	17.4	19.1	－	沈線4条ナデ	ナデ	－	－	－	－	19C	201605000273
図版12	163	SK40	土師質	サナ	13.2	－	2.5	－	ナデ	ナデ	－	－	摩耗19穴	－	19C	201605000275
図版12	164	SK46	陶器	溝縁皿	(14.0)	－	(1.8)	透明釉	－	－	－	－	－	肥前	17C前	201605000088
図版12	165	SK46	瓦	軒丸瓦	－	－	1.3	－	三巴	－	－	－	－	－	－	201605000089
図版12	166	SK50	磁器	端反碗	9.2	3.6	5.5	染付	石榴	雷	圏線松竹梅	－	コバルト	肥前	19C中～	201605000090

第５表　第30次調査出土遺物観察表５

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・加工	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版12	167	SK50	磁器	鉢	20.3	7.1	8.0	染付	波	－	水仙	－	コバルト	肥前	19C中～	201605 000091
図版12	168	SK52	磁器	蓋物	－	－	(3.9)	染付	唐草	－	－	－	口縁釉剥	肥前	18C後	201605 000092
図版12	169	SK52	陶器	坑	－	－	(2.6)	透明釉	－	－	－	－	－	肥前	18C	201605 000093
図版12	170	SK57上層	磁器	碗	－	(3.9)	(3.7)	染付	丸	－	－	角福？	－	肥前	18C中～	201605 000094
図版12	171	SK57上層	磁器	蓋物蓋	(9.4)	－	(1.8)	色絵染付	梅	－	－	－	－	肥前	18C中～	201605 000098
図版12	172	SK57下層	磁器	小坏	－	2.5	(0.9)	染付	－	－	草	「埦」銘	－	肥前	17C中～	201605 000100
図版12	173	SK57下層	磁器	小徳口	(5.2)	－	(3.3)	白磁	－	－	－	－	－	肥前	17C後～18C前	201605 000101
図版12	174	SK57下層	陶器	坑	－	(3.8)	(2.1)	鉄釉	－	－	－	－	－	肥前	17C後～18C前	201605 000102
図版12	175	SK85	磁器	碗蓋	－	4.3	(1.9)	染付	蕨　梅	－	二重圏線　手鉤	－	－	肥前	18C中	201605 000221
図版12	176	SK85	陶器	坑	－	3.0	(4.0)	透明釉	花	－	－	無釉	関西系	肥前	17C後～18C前	201605 000222
図版12	177	SK85	陶器	坑	－	(4.6)	(3.1)	透明釉	白土掛流	白土ハケ	－	－	－	肥前	17C後～18C前	201605 000223
図版12	178	SK85	陶器	土瓶	(11.6)	－	(6.3)	緑釉	－	－	－	－	－	－	18C後	201605 000224
図版12	179	SK90	磁器	鉢	(11.8)	(7.2)	6.9	染付	竹林	雪輪	二重圏線	－	口縁絞花	肥前	19C中～	201605 000239
図版12	180	SK90	磁器	小坏	6.2	3.0	3.1	色絵	－	花弁	－	－	口銹	肥前	19C中～	201605 000236
図版12	181	SK90	磁器	小皿	8.0	4.9	2.3	染付	－	山水　家屋	－	－	口縁釉花	肥前	19C中～	201605 000237
図版12	182	SK90	陶器	灰入	10.7	10.7	9.4	透明釉	白土　松	－	－	「御ハタ」墨書　五足ハマ痕	－	－	19C	201605 000240
図版12	183	SK90	陶器	鉢蓋	－	4.4	(8.7)	透明釉	－	－	－	－	被熱	肥前	19C	201605 000241
図版12	184	SK92	磁器	碗	－	－	(2.8)	染付	草	－	－	－	－	肥前	18C	201605 000244
図版12	185	SK92	磁器	碗	－	3.0	(1.7)	色絵	花弁	－	－	－	蛇ノ目高台	肥前	17C後	201605 000243
図版12	186	SK95	磁器	碗	(10.4)	3.9	5.5	染付	花弁	－	－	圏線「大藤屋藤」	－	肥前	18C前	201605 000248
図版12	187	SK95	磁器	碗	(9.6)	(4.4)	4.8	染付	花唐草　菊	－	－	二重角福？	－	肥前	18C前	201605 000250
図版12	188	SK95	磁器	碗	－	(4.6)	(3.7)	染付	－	－	－	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605 000251
図版12	189	SK95	磁器	碗	11.2	5.2	7.0	染付	山水	－	－	－	生掛釉　くらわんか手	肥前	18C前～中	201605 000247
図版12	190	SK95	磁器	碗	－	3.5	4.6	青磁染付	青磁釉	笹	二重圏線笹	－	－	肥前	18C中～	201605 000252
図版12	191	SK95	磁器	小坏	(5.6)	(3.2)	2.8	染付	亀甲　雪	－	－	－	－	肥前	18C	201605 000245
図版12	192	SK95	磁器	碗蓋	(9.0)	3.4	2.8	染付	細コンニャク印刻	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000255
図版12	193	SK95	磁器	猪口	7.2	3.9	4.7	白磁	－	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000256
図版12	194	SK95	磁器	皿	(14.2)	－	2.6	染付	丸	芙蓉手	－	－	－	肥前	17C末～18C前	201605 000261
図版12	195	SK95	磁器	鉢	10.5	－	(5.9)	青磁染付	青磁釉	酸煙	－	－	－	肥前	18C中	201605 000254
図版13	196	SK95	陶器	壷	－	5.9	(6.2)	鉄釉	鉄釉	無釉	－	－	－	肥前	－	201605 000258
図版13	197	SK95	陶器	灰入	9.7	4.1	5.3	褐釉	褐釉	無釉	－	－	－	肥前	－	201605 000257
図版12	198	SK95	磁器	碗	(9.2)	－	(4.1)	染付	草花　雲	－	－	－	－	肥前	18C前～中	201605 000262
図版12	199	SK97	陶器	土瓶	－	－	(3.4)	褐釉	褐釉	－	－	－	－	－	18C後～	201605 000264
図版13	200	SK98	磁器	碗	－	(3.8)	4.7	染付	菊花	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 000265
図版13	201	SK98	瓦	軒丸瓦	(2.5)	(11.8)	1.6	－	三巴	－	－	－	－	－	－	201605 000266
図版13	202	SK100	磁器	瑞反碗	10.6	4.4	5.7	染付	格子　花　雲	工字繋	花	－	－	肥前	19C前～中	201605 000235
図版13	203	SK100	磁器	碗	－	－	(2.1)	青華	霊芝	霊芝	－	－	清朝磁器	中国	19C前	201605 000266
図版13	204	SK100	磁器	小碗	7.0	2.5	3.8	染付	菊花隠刻	－	－	－	－	肥前	18C	201605 000278
図版13	205	SK100	磁器	鉢	17.1	9.2	6.4	染付	山水	窓に山水・花・稚蝶	鳳凰	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000276
図版13	206	SK100	磁器	段重蓋	(15.2)	－	4.4	染付	唐草	－	－	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000283
図版13	207	SK100	陶器	急須	6.2	5.8	9.1	透明釉	－	－	－	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000288
図版13	208	SK100	陶器	蠟鉢	(32.0)	－	5.5	褐釉	－	13本1単位溝	－	－	－	－	－	201605 000279
図版13	209	SK100	陶器	小皿	(8.6)	2.4	2.2	透明釉	－	－	－	糸切底	被熱	肥前	－	201605 000280

第６表　第30次調査出土遺物観察表６

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	釉付 釉薬	文様・調整 外面	文様・調整 内面	文様・調整 見込み	文様・調整 底面・高台内 印銘等	特徴	製作場・窯元	時期	登録番号
図版13	210	SK100	瓦	桟瓦	(3.6)	(9.2)	1.9	－	三巴	－	－	－	－	－	－	201605 000289
図版13	211	SK100	陶器	壺	20.0	15.9	38.7	褐釉	タタキ　ナデ	タタキ　ナデ	－	－	－	－	－	201605 000291
図版13	212	SK103	磁器	碗	(8.4)	(3.2)	5.5	染付	蝶	－	－	－	－	肥前	19C前	201605 000014
図版13	213	SK103	磁器	小碗	(6.8)	(3.6)	5.3	染付	梅花	－	－	－	－	肥前	19C前	201605 000021
図版13	214	SK103	磁器	端反碗	－	(4.8)	6.2	染付	山水	－	岩波	－	－	肥前	19C前～中	201605 000015
図版13	215	SK103	磁器	皿	(12.6)	(8.0)	3.2	染付	不明	山水	－	－	蛇ノ目凹型高台	肥前	19C前～中	201605 000017
図版13	216	SK103	磁器	小皿	10.2	5.9	2.5	染付	－	格子　花	－	－	型物　口銹 口縁縁花	肥前	19C前～中	201605 000232
図版13	217	SK103	磁器	小皿	(9.0)	5.2	2.4	染付	－	山水　家屋	－	－	型物　口銹 口縁縁花	肥前	19C前～中	201605 000318・323
図版13	218	SK103	磁器	小皿	－	5.2	(10.1)	染付	－	－	－	－	口縁打欠 再利用品	肥前	19C前～中	201605 000316
図版13	219	SK103	磁器	壺	(8.7)	(3.0)	8.2	染付	山水楼閣　月島　「橋海」	－	－	－	口縁釉剥	肥前	19C前～中	201605 000324
図版13	220	SK103	陶器	ミニチュア鉢	(2.4)	(1.8)	2.7	透明釉	－	－	－	無釉	－	－	－	201605 000329
図版13	221	SK120	磁器	碗	(10.0)	－	(4.8)	染付	こんにゃく印 判藤	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000048
図版13	222	SK120	磁器	小皿	6.0	2.5	2.7	色絵	草花	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000050
図版13	223	SK120	陶器	坑	(12.4)	(6.0)	7.8	褐釉	－	－	－	－	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 000051
図版13	224	SK128	土師質	壺	－	22.1	(6.0)	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 000056
図版13	225	SK131	磁器	碗	(10.2)	(4.0)	5.2	染付	草花	－	－	－	－	肥前	18C中～	201605 000057
図版13	226	SK131	磁器	碗	－	－	2.2	青華	霊芝	－	－	－	清朝磁器	中国	19C前	201605 000058
図版13	227	SK131	磁器	小皿	(7.0)	(4.8)	1.7	染付	－	草花	－	－	－	肥前	19C前	201605 000060
図版13	228	SK142	磁器	小碗	5.8	3.1	3.4	色絵	梅花	－	－	－	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 000082
図版13	229	SK142	磁器	碗	－	(4.0)	(4.4)	染付	藤コンニャク印 判	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 000081
図版13	230	SK142	陶器	鉢	－	－	(10.3)	緑釉	白土ハケ 鎬子	緑釉	－	－	－	武雄系	17C後	201605 000084
図版13	231	SK142	瓦	丸瓦	26.0	13.6	2.0	－	－	ナデ	布目	－	－	－	－	201605 000085
図版13	232	SK153	磁器	碗	10.0	4.2	5.6	染付	三巴　唐草 圏線	－	－	二重角福？	－	肥前	17C末～18C前	201605 000442
図版13	233	SK153	磁器	小碗	(7.0)	2.7	3.4	染付	酸模　圏線	－	－	－	－	肥前	17C末～18C前	201605 000443
図版13	234	SK153	磁器	皿	－	－	3.9	染付	草花	芙蓉手	－	－	口縁縁花	肥前	17C後	201605 000449
図版13	235	SK153	陶器	坑	11.2	4.3	6.2	銅緑・透明釉	銅緑釉	透明釉	フリモノ	無釉	－	肥前	17C後	201605 000445
図版13	236	SK153	陶器	擂鉢	(29.8)	－	5.7	口縁鉄釉	－	12本1単位溝	－	－	－	－	－	201605 000447
図版13	237	SK153	土師質	灯明皿	9.0	4.4	1.6	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 000452
図版13	238	SK153	土師質	灯明皿	8.6	3.5	1.7	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 000451
図版13	239	SK156	磁器	端反碗	(10.0)	－	(3.4)	染付	格子　草花	格子	－	－	－	肥前	19C前～中	201605 000453
図版13	240	SK156	陶器	ハマ	(9.0)	(8.6)	1.6	－	－	－	－	－	2足推存	－	－	201605 000454
図版13	241	SK157	磁器	端反碗	11.4	5.0	6.5	染付	山水	－	山水	－	－	肥前	19C前～中	201605 000456
図版13	242	SK158	磁器	端反碗	(10.2)	3.8	6.0	染付	琴　不明	雷	圏線 松竹梅	－	－	肥前	19C中	201605 000457
図版13	243	SK158	陶器	急須蓋	9.0	3.0	(1.7)	透明釉	白土ハケ	－	－	－	東野李 ツマミ剥落	筑後	19C中	201605 000458
図版14	244	SK159	磁器	碗	10.0	－	(4.5)	染付	草	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 000459
図版14	245	SK159	磁器	皿	14.1	7.8	4.0	染付	唐草	松竹梅	二重圏線 五弁花	圏線 二重角福	－	肥前	18C前	201605 000460
図版14	246	SK159	陶器	瓶	－	(10.0)	(6.7)	透明釉	不明	－	－	－	－	－	－	201605 000461
図版14	247	SK160	磁器	端反碗	(10.6)	4.5	6.1	染付	山水	－	岩波	－	－	肥前	19C前	201605 000462
図版14	248	SK160	磁器	碗	－	4.8	(2.9)	染付	山水	－	圏線　岩波	－	－	肥前	19C前	201605 000463
図版14	249	SK160	磁器	輪神酒徳利	1.5	3.5	10.2	色絵	梅　松	－	－	砂付着	－	肥前	－	201605 000465
図版14	250	SK160	陶器	壺	－	16.2	(16.9)	褐・灰釉	鎬子	－	－	－	－	肥前	－	201605 000464
図版14	251	SK160	瓦	軒丸瓦	(7.6)	(10.7)	1.6	－	－	－	－	－	－	－	－	201605 000466
図版14	252	SK160	ガラス	瓶	－	－	(3.0)	－	－	－	－	－	－	－	19C	201605 000467

第７表　第30次調査出土遺物観察表７

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付　釉薬	文様・調整					胎土・焼成・釉土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等	特徴			
図版14	253	SK171	磁器	碗	(4.4)	(3.8)	4.7	染付	草	–	–	–	–	肥前	17C末～18C前	201605 000472
図版14	254	SK171	磁器	皿	–	11.0	(10.4)	染付	圏線	岩　網　芒	–	ハリ痕!	–	肥前	17C末～18C前	201605 000480
図版14	255	SK171	磁器	ミニチュア皿	4.1	1.8	1.6	白磁	–	–	–	–	–	肥前	17C末～18C前	201605 000473
図版14	256	SK171	磁器	瓶	–	6.2	(9.8)	色絵	七宝繋　恵に草花・植子	–	–	–	–	肥前	18C	201605 000481
図版14	257	SK171	陶器	壺	(9.6)	–	(4.4)	褐・灰釉	–	–	–	–	–	肥前	17C末～18C前	201605 000475
図版14	258	SK171	陶器	水注	–	4.2	(4.3)	褐・灰釉	–	–	–	砂付着	–	肥前	17C末～18C前	201605 000476
図版14	259	SK171	陶器	ミニチュア壺	3.0	2.3	1.9	透明釉	–	–	–	無釉	–	–	–	201605 000477
図版14	260	SK171	土製品	土鈴	7.2	5.8	0.7	–	ナデ	ナデ	–	–	–	–	–	201605 000478
図版14	261	SK175	磁器	碗	–	–	(2.8)	染付	–	–	–	–	–	肥前	18C	201605 000550
図版14	262	SK175	陶器	ハマ	5.8	3.0	1.2	–	–	–	–	–	–	–	–	201605 000551
図版14	263	SK175	陶器	壺	–	21.6	(17.2)	褐釉	自釉掛流	–	–	–	使槽	–	–	201605 001359
図版14	264	SK180	磁器	小碗	6.7	2.4	2.8	染付	笹	–	–	–	–	肥前	18C後～	201605 000553
図版14	265	SK180	磁器	小皿	8.2	4.4	2.6	染付	–	波　船	–	–	–	肥前	19C前	201605 000554
図版14	266	SK180	磁器	小瓶	–	3.6	(7.7)	染付	草花	–	–	–	–	肥前	19C前	201605 000555
図版14	267	SK180	陶器	小壺	8.8	2.9	4.5	灰釉	–	–	–	無釉	–	肥前	18C末～19C	201605 000556
図版14	268	SK180	陶器	急須蓋	10.8	4.4	(1.4)	透明釉	白土ハケ	–	–	–	ツマミ剥落 実野亭	筑後	19C中	201605 000559
図版14	269	SK180	陶器	急須蓋	6.0	–	2.7	灰釉	–	無釉	–	–	–	–	–	201605 000558
図版14	270	SK180	陶器	急須蓋	8.4	6.2	3.8	銅緑釉	–	無釉	–	–	–	–	19C	201605 000560
図版14	271	SK180	土師質	小皿	6.9	2.8	1.3	–	ナデ	ナデ	–	糸切	–	–	–	201605 000562
図版14	272	SK180	土師質	サナ	(14.0)	–	1.2	–	ナデ	ナデ	–	–	–	–	–	201605 000561
図版14	273	SK180	土製品	鳴笛	(8.0)	(4.0)	(2.8)	–	ナデ	ナデ	–	–	–	–	–	201605 000563
図版14	274	SK180	土製品	土人形亀	(6.2)	(4.2)	(2.8)	–	–	–	–	–	型物	–	18C後～19C前	201605 000565
図版14	275	SK190	磁器	広東碗	–	(6.4)	(3.3)	染付	不明	不明	岩波?	「大明■■」	–	肥前	–	201605 000572
図版14	276	SK190	磁器	皿	(13.0)	(7.8)	4.7	染付	唐草	草花	二重圏線 五弁花	圏線	くらわんか手	肥前	18C後	201605 000584
図版14	277	SK190	磁器	皿	(13.2)	(7.8)	4.0	染付	唐草	草花	二重圏線	–	蛇ノ目凹型高台	肥前	18C後	201605 000573
図版14	278	SK190	磁器	小皿	(10.4)	(6.6)	1.9	染付	–	草花	圏線	–	口縁縦花	肥前	18C後	201605 000574
図版14	279	SK190	磁器	紅皿	5.1	1.3	1.6	白磁	無釉	–	–	–	型物	肥前	–	201605 000575
図版14	280	SK190	磁器	小瓶	–	3.7	(7.2)	染付	草花	–	–	貫付砂付着	–	肥前	18C後	201605 000597
図版14	281	SK190	磁器	仏器器	7.1	3.4	6.6	染付	鋼唐草	–	–	釉剥	–	肥前	18C後	201605 000596
図版14	282	SK190	陶器	鉢	(30.4)	–	(12.6)	灰・銅緑釉	銅緑釉掛流	銅緑釉掛流	–	–	–	肥前	18C後～19C前	201605 000599
図版14	283	SK190	陶器	擂鉢	–	9.6	(5.2)	–	–	8本1単位溝	–	糸切	–	–	–	201605 000588
図版14	284	SK190	陶器	蓋	3.6	–	2.4	褐釉	–	無釉	–	–	–	–	–	201605 000589
図版14	285	SK190	土師質	灯明皿	(8.0)	3.2	1.9	–	ナデ	ナデ	–	糸切	油煙付着	–	–	201605 000581
図版14	286	SK190	土師質	小皿	(7.4)	3.2	1.8	–	ナデ	ナデ	–	糸切	–	–	–	201605 000582
図版14	287	SK190	土師質	小皿	(7.4)	4.4	1.3	–	ナデ	ナデ	–	糸切	–	–	–	201605 000579
図版14	288	SK190	土師質	小皿	(7.0)	4.3	1.3	–	ナデ	ナデ	–	糸切	–	–	–	201605 000580
図版15	289	SK190	磁器	碗	(9.6)	4.2	5.1	染付	網	網	二重圏線 菊花	角福?	–	肥前	17C後～18C前	201605 000623
図版15	290	SK208	磁器	碗	(10.2)	4.1	4.8	染付	花唐草	–	–	–	–	肥前	18C前	201605 000624
図版15	291	SK208	磁器	小碗	6.4	2.5	4.9	白磁	鎬	–	–	無釉	生掛釉	肥前	17C中	201605 000625
図版15	292	SK208	陶器	皿	–	6.4	(2.3)	染付	唐草	松竹梅	二重圏線 五弁花	「朝」	朝倉焼	筑後	18C前	201605 000621
図版15	293	SK208	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	3.7	染付	唐草	山水　梅　松	二重圏線	二重圏線	–	肥前	18C前	201605 000622
図版15	294	SK208	磁器	水滴	(3.2)	3.3	2.4	染付	草	無釉	–	布目	型物	肥前	–	201605 000627
図版15	295	SK208	磁器	蓋	2.7	–	(2.2)	白磁	–	–	–	–	ツマミ剥落	肥前	–	201605 000626
図版15	296	SK208	陶器	壺	(10.0)	5.4	6.4	透明釉	山水	–	–	無釉 「小松言」	関西系	肥前	17C後	201605 000620

第８表　第30次調査出土遺物観察表８

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉付　釉薬	文様・調整					特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	底面・高台内印刻等					
図版15	297	SK208中層	磁器	碗	(11.4)	4.2	6.0	色絵	植目紋 窓に笹竹	－	－	長付砂付底	－	肥前	17C後		201605 000630
図版15	298	SK208中層	磁器	碗	(10.2)	(3.8)	5.0	染付	圏線　松	－	－	圏線	－	肥前	17C後		201605 000631
図版15	299	SK208中層	磁器	碗	9.4	3.6	5.4	染付	網　蓮華	圏線	二重圏線 蓮華	圏線	生掛釉	肥前	17C後		201605 000632
図版15	300	SK208中層	磁器	小碗	(6.6)	2.7	4.7	染付	圏線　草	－	－	角	－	肥前	17C後		201605 000634
図版15	301	SK208中層	磁器	碗	－	(3.2)	(1.2)	染付	不明	－	二重圏線 羊歯	－	－	肥前	18C中		201605 000635
図版15	302	SK208中層	磁器	碗	－	5.6	(2.7)	青磁	－	－	フリモノ	－	－	肥前	17C		201605 000636
図版15	303	SK208中層	磁器	皿	－	(14.6)	(6.5)	褐釉	－	白土ハケ	砂目痕	無釉	武雄系	肥前	17C中～ 後		201605 000637
図版15	304	SK208中層	土師質	小皿	8.9	4.2	2.1	－	ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－		201605 000642
図版15	305	SK208中層	土師質	小皿	9.0	4.2	2.1	－	ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－		201605 000641
図版15	306	SK208下層	磁器	六角鉢	－	3.5	5.4	染付	花弁	－	－	「大明製化年製」	生掛釉	肥前	17C中～ 後		201605 000643
図版15	307	SK208下層	陶器	皿	24.7	9.4	6.1	透明釉	－	褐・青釉掛流 白土ハケ 砂目痕6	－	無釉	武雄系	肥前	17C中～ 後		201605 000645
図版15	308	SK208下層	陶器	皿	13.7	4.9	3.5	透明・銅緑釉	透明釉	銅緑釉	蛇ノ目釉剥	砂目痕4	－	肥前	17C中～ 後		201605 000644
図版15	309	SK208下層	土師質	土鍋	(49.6)	－	(7.6)	－	ハケ　ナデ	ハケ　ナデ	－	－	煤付着	－	－		201605 000646
図版15	310	SK211	磁器	碗	(10.2)	－	(3.2)	染付	草	－	－	－	口縁釉剥	肥前	18C前		201605 000771
図版15	311	SK211	磁器	杯	4.8	2.4	(2.4)	染付	輪線	無釉	－	－	－	肥前	－		201605 000772
図版15	312	SK212	磁器	端反碗	10.0	3.6	5.6	染付	松竹梅	雷	圏線 松竹梅	－	－	肥前	19C中		201605 000776
図版15	313	SK212	磁器	碗	10.0	3.3	4.1	染付	文字	－	－	－	－	肥前	19C中		201605 000773
図版15	314	SK212	磁器	小碗	(7.0)	3.4	5.6	染付	花	－	－	－	－	肥前	19C中		201605 000777
図版15	315	SK212	磁器	瓶	6.1	2.4	2.8	染付	－	圏線　山水殆	－	－	コバルト	肥前	19C後		201605 000779
図版15	316	SK212	磁器	端反碗蓋	9.0	4.1	2.4	染付	格子　草花	格子	圏線　蝶	－	－	肥前	19C中		201605 000781
図版15	317	SK212	磁器	皿	11.0	6.5	2.9	染付	笹	岩　草花	－	－	溶着痕	肥前	19C中		201605 000782
図版15	318	SK212	陶器	小皿	8.0	3.8	2.1	染付	－	笠　杖　丁字	－	－	－	肥前	19C中		201605 000783
図版15	319	SK212	陶器	急須蓋	(4.2)	－	2.5	透明釉	白土　鉄絵花	無釉	－	－	－	－	19C		201605 000789
図版15	320	SK212	陶器	平皿	5.3	3.2	2.6	透明釉	－	無釉	－	糸切	－	－	－		201605 000791
図版15	321	SK212	陶器	ハマ	5.2	5.2	0.6	－	墨書「寿」	墨書「のろいは」	－	－	転用硯具	－	－		201605 000800
図版15	322	SK212	土師質	灯明皿	6.4	3.9	1.1	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－		201605 000795
図版15	323	SK212	土師質	灯明皿	6.5	4.0	1.3	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－		201605 000796
図版15	324	SK212	土師質	灯明皿	6.3	4.2	1.1	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－		201605 000797
図版10	325	SK212	石製品	硯	(5.7)	(4.7)	(1.1)	－	－	－	－	－	赤間硯 32 g	長門	－		201605 000802
図版10	326	SK212	石製品	火打石	5.5	4.6	2.6	－	－	－	－	－	75 g	－	－		201605 000803
図版15	327	SK217	磁器	碗	(10.6)	(4.2)	5.0	染付	松　松竹	－	－	－	－	－	18C中		201605 000818
図版15	328	SK217	磁器	碗	(10.0)	3.6	4.9	染付	草花	－	－	－	－	肥前	18C中		201605 000819
図版15	329	SK217	磁器	碗	(12.0)	(8.2)	6.5	染付	柳　月　文字	二重圏線	圏線	－	－	肥前	18C中		201605 000817
図版15	330	SK217	陶胎	皿	(22.0)	(12.8)	4.4	染付	花唐草	唐草　花	－	圏線	口縁釉花	肥前	18C前		201605 000822
図版15	331	SK217	陶器	坑	－	4.4	(3.4)	鉄釉	－	－	－	－	－	肥前	17C後		201605 000828
図版15	332	SK217	陶器	蠟鉢	(38.0)	(12.6)	13.4	透明釉	－	－	－	－	－	－	18C		201605 000833
図版10	333	SK217	ガラス	簪	(5.3)	0.6	0.3	－	－	－	－	－	－	－	－		201605 000835
図版15	334	SK219	磁器	碗	(8.0)	－	(3.4)	染付	山	雷	－	－	－	肥前	19C中～		201605 000849
図版15	335	SK219	陶器	鍋	(16.8)	－	5.4	透明釉	－	－	－	－	－	－	19C中～		201605 000847
図版16	336	SK223	磁器	碗	－	(4.0)	6.0	染付	圏線　雪輪	圏線　波線	圏線	－	－	肥前	19C中		201605 000854
図版16	337	SK223	磁器	端反碗	－	－	5.6	染付	二重圏線　羊歯	二重圏線　蓮華	－	－	－	肥前	19C中		201605 000856
図版16	338	SK223	磁器	広東碗	－	5.9	(3.3)	染付	蓮華	－	花	－	－	肥前	19C前		201605 000855
図版16	339	SK223	磁器	皿	(8.6)	4.3	2.6	青華	草花	二重圏線　草花		異体字	清朝磁器	中国	19C前		201605 000859

第９表　第30次調査出土遺物観察表９

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉付	釉薬	文様・調整					特徴	焼成種・焼上	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）			外面	内面	見込み	底面・高台内 印鑑等					
図版16	340	SK223	陶器	蓋	(7.6)	3.0	2.4	鉄釉		－	無釉	－	糸切	－	－	19C	201605 000964
図版16	341	SK223	陶器	土瓶	(9.0)	－	(7.9)	灰釉		草花	無釉	－	－	－	－	19C	201605 000963
図版16	342	SK223	陶器	壁	(24.4)	(23.6)	4.3	灰釉		重線	銅線釉掛流	－	無釉	足付	－	19C	201605 000961
図版16	343	SK233	磁器	碗	(10.8)	4.5	5.8	染付		梅	－	蘭	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000962
図版16	344	SK233	磁器	碗	9.4	4.8	5.0	染付		草花	－	－	口縁釉剥	－	肥前	19C前	201605 000967
図版16	345	SK233	磁器	碗	8.2	3.7	6.1	染付		岩松	－	岩波	－	被熱	肥前	19C前	201605 000941
図版16	346	SK233	磁器	広東碗	11.0	5.6	5.8	染付		鶴　草花　蝶	二重圏線	圏線　岩波	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000944
図版16	347	SK233	磁器	端反碗	(9.6)	(4.6)	4.4	染付		月　鳥 「月落鳥啼」	－	不明	－	－	肥前	19C前	201605 000945
図版16	348	SK233	磁器	端反碗	(9.6)	4.1	5.0	青華		稲花　雲芝	－	二重圏線花	二重圏線 異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605 000979
図版16	349	SK233	磁器	端反碗	－	(4.0)	5.1	青華		稲花　雲芝	－	二重圏線花	二重圏線 異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605 000933
図版16	350	SK233	磁器	小坪	8.0	2.9	3.4	青華		雲　蒲弁	二重圏線	二重圏線 石榴	「成化年製」	清朝磁器 量子	中国	19C前	201605 000964
図版16	351	SK233	磁器	小坪	(9.6)	2.4	4.3	青華		雲　石榴	－	－	－	清朝磁器	中国	19C前	201605 000983
図版16	352	SK233	磁器	小碗	7.2	2.6	3.2	染付		山　鳥	フリモノ	－	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000988
図版16	353	SK233	磁器	広東碗蓋	9.9	5.6	2.7	染付		岩波　花	二重圏線	圏線　岩波	波　草花	－	肥前	18C末～19C前	201605 000946
図版16	354	SK233	磁器	広東碗蓋	(9.2)	5.1	2.8	染付		草花　蝶	－	岩波	草花	－	肥前	18C末～19C前	201605 000989
図版16	355	SK233	磁器	広東碗蓋	10.0	5.4	2.5	染付		山水　草花	二重圏線	圏線　岩波	草花	－	肥前	18C末～19C前	201605 000990
図版16	356	SK233	磁器	広東碗蓋	9.3	5.2	2.8	染付		草花　蝶	－	岩波	草花	－	肥前	18C末～19C前	201605 000947
図版16	357	SK233	磁器	碗蓋	9.7	4.3	2.8	染付		鶴	－	鶴　亀	鶴	－	肥前	18C末～19C前	201605 000949
図版16	358	SK233	磁器	碗蓋	8.2	3.3	2.7	染付		岩松　鶴	－	岩松　鶴	－	－	肥前	18C末～19C前	201605 000950
図版16	359	SK233	磁器	皿	14.5	10.0	5.7	染付		圏線　源氏香	松　竹　鶴	－	蛇ノ目凹型高台	－	肥前	18C末～19C前	201605 000991
図版16	360	SK233	磁器	皿	(13.6)	8.9	4.2	染付		圏線　源氏香	二重圏線 雪輪　笠	－	蛇ノ目凹型高台	－	肥前	19C前	201605 000951
図版16	361	SK233	磁器	皿	10.0	6.6	2.4	白磁		－	菊花型押	－	－	口銹　型物	肥前	19C前	201605 000952
図版16	362	SK233	磁器	鉢	(18.2)	8.0	8.2	青華		圏線　花唐草 蒲弁	二重圏線 虎皮	二重圏線 草花	異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605 000952
図版16	363	SK233	磁器	段重	(13.4)	10.2	5.2	色絵		草花	－	－	－	－	肥前	19C前	201605 000992
図版16	364	SK233	磁器	蓋	(20.4)	(9.4)	4.9	色絵		赤壁賦	－	－	「永興」	－	肥前	19C	201605 000993
図版16	365	SK233	磁器	神神酒徳利	2.5	－	(9.1)	染付		鶴	－	－	－	－	肥前	18C後	201605 000955
図版16	366	SK233	磁器	猪口	(7.2)	4.0	4.3	染付		水梨　雪輪	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 000958
図版16	367	SK233	磁器	合子身	6.3	5.8	2.4	染付		梅	－	－	無釉	－	肥前	－	201605 000957
図版16	368	SK233	磁器	合子蓋	6.8	6.9	1.5	染付		鳥　竹　岩	－	－	－	－	肥前	－	201605 000956
図版16	369	SK233	陶器	壺	(10.6)	4.8	5.6	灰・緑釉		波紋　輪線	－	－	－	端反	－	19C	201605 000959
図版16	370	SK233	陶器	壺	(10.6)	(3.4)	6.1	褐釉		灰釉掛流	－	－	－	端反	－	19C	201605 000995
図版16	371	SK233	陶器	壺	(11.6)	4.3	6.2	褐釉		灰釉掛流	－	－	－	端反　被熱	－	19C	201605 000996
図版16	372	SK233	陶器	小皿	－	4.4	1.1	－		－	雲　龍	－	－	型物	－	－	201605 000961
図版16	373	SK233	陶器	蓋	(8.6)	－	4.4	褐釉		－	無釉	－	－	－	－	－	201605 000998
図版16	374	SK233	陶器	瓶	9.5	6.6	10.7	褐釉		下半無釉	－	－	－	煤付着	－	19C	201605 000974
図版16	375	SK233	陶器	擂鉢	(37.2)	14.8	16.0	褐釉		－	－	－	－	－	－	－	201605 000977
図版16	376	SK233	陶器	擂鉢	21.1	9.1	7.3	褐釉		－	－	－	－	－	－	－	201605 000967
図版16	377	SK233	土師質	灯明皿	(7.4)	4.4	1.6	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煤付着	－	－	201605 000976
図版17	378	SK233下層	磁器	碗	8.2	3.4	6.1	染付		岩松	－	岩波	－	被熱	肥前	19C中	201605 001003
図版17	379	SK233下層	磁器	端反碗	10.4	4.1	6.7	染付		圏線　四方欄	二重圏線　渦	二重圏線 平歯	－	清磁	肥前	19C中	201605 001002
図版17	380	SK233下層	磁器	端反碗	8.5	3.6	5.3	染付		圏線　ダミ 草花	二重圏線 ダミ　草花	草花	－	－	肥前	19C中	201605 001004
図版17	381	SK233下層	磁器	広東碗蓋	9.6	5.5	4.8	染付		草花	－	岩波	草花	－	肥前	18C末～19C前	201605 001005
図版17	382	SK233下層	陶器	四耳壺	－	10.9	(21.2)	透明・褐釉		上半褐釉 下半透明釉	－	－	－	－	－	－	201605 001008
図版17	383	SK233下層	陶器	壺	17.1	9.0	17.5	褐釉		下半釉剥	－	－	釉剥	－	－	－	201605 001009

第10表　第30次調査出土遺物観察表10

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付　釉薬	文様・調整				特徴	製作地・加工	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版17	384	SK233下層	陶器	灯明皿	8.5	5.4	4.1	灰釉	「半」印刻	－	－	－	油煙付着	－	－	201605 001010
図版17	385	SK233下層	陶器	土瓶蓋	(7.6)		2.6	褐釉	－	無釉	－	－	－	－	19C	201605 001006
図版17	386	SK240	磁器	小坏	5.9	2.0	3.4	白磁	－	－	－	－	－	肥前	17C後	201605 001017
図版17	387	SK240	磁器	小坏	(5.8)	(2.6)	3.3	白磁	菊花型押	菊花型押	－	－	口銹　型物	肥前	17C後	201605 001018
図版17	388	SK240	磁器	仏器蓋	7.2	3.5	5.5	染付	相コンニャク印刻	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001027
図版17	389	SK240	陶器	坑	10.3	4.2	6.3	透明・銅緑釉	銅緑釉	透明釉	－	－	－	肥前	17C末～18C前	201605 001020
図版17	390	SK240	陶器	坑	(5.2)	4.3	5.8	褐釉	白土ハケ	白土ハケ	－	－	－	肥前	18C前	201605 001019
図版17	391	SK240	陶器	坑	(10.4)	4.4	6.0	透明釉	白土丸	白土掛流	－	砂付着	現川系	肥前	18C前	201605 001028
図版17	392	SK240	土師質	灯明皿	7.7	3.8	1.6	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001026
図版17	393	SK240	土師質	灯明皿	5.7	3.1	1.3	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001025
図版17	394	SK240	土師質	小皿	(8.6)	4.4	1.6	－	ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－	201605 001031
図版17	395	SK240	土師質	小皿	5.8	3.5	1.3	－	ナデ	ナデ	－	糸切	焼成後底部穿孔	－	－	201605 001032
図版17	396	SK240	土製品	土鈴	(6.6)	(5.7)	0.6	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 001033
図版17	397	SK248	磁器	碗	－	4.2	(1.8)	染付	－	－	－	渦福	－	肥前	18C前	201605 001058
図版17	398	SK248	磁器	手塩皿	－	－	1.3	染付	紅葉コンニャク印刻	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001063
図版17	399	SK248	磁器	ミニチュア皿	4.1	1.8	1.4	染付	－	松葉	－	無釉	－	肥前	－	201605 001062
図版17	400	SK248	磁器	仏器蓋	－	4.1	6.8	染付	圏線	－	フリモノ	－	－	肥前	－	201605 001061
図版17	401	SK248	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(1.8)	(1.8)	－	三巴	－	－	－	－	－	－	201605 001065
図版17	402	SK249	磁器	皿	－	(4.0)	(2.3)	白磁？	－	－	蛇ノ目釉剥	無釉	－	肥前	18C後	201605 001066
図版17	403	SK253	磁器	小碗	(8.2)	3.9	3.9	白磁	－	－	－	－	－	肥前	17C末～18C前	201605 001070
図版17	404	SK253	土師質	灯明皿	－	(4.2)	1.6	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001071
図版17	405	SK256	陶器	碗	－	(4.2)	(5.2)	色絵	圏線　網　花	－	－	－	－	肥前	17C後	201605 001098
図版17	406	SK256	陶器	皿	－	－	(2.5)	透明・銅緑釉	透明釉	銅緑釉	－	－	－	肥前	17C後	201605 001099
図版17	407	SK256	磁器	蓋	－	－	(15.1)	透明・褐釉	白土ハケ	－	－	－	武雄系	肥前	17C後	201605 001100
図版17	408	SK266	磁器	碗	10.4	4.1	6.3	染付	梅　菊花　雑才	－	－	「大明年製」	－	肥前	17C後	201605 001111
図版17	409	SK266	磁器	碗	9.2	3.1	4.8	染付	梅	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001110
図版17	410	SK266	磁器	小碗	8.0	3.2	4.5	白磁	－	－	－	－	生掛釉	肥前	18C前～中	201605 001114
図版17	411	SK266	磁器	小坏	7.5	3.8	5.4	染付	水裂	－	花弁	梅　梅	－	肥前	18C前	201605 001113
図版17	412	SK266	磁器	皿	－	(5.8)	(2.5)	色絵	－	－	花弁	蛇ノ目釉剥　蓮弁	－	肥前	17C後	201605 001117
図版17	413	SK266	磁器	小皿	6.5	2.9	2.3	白磁	－	－	－	－	－	肥前	－	201605 001115
図版17	414	SK266	陶器	坑	10.0	3.8	4.4	透明釉	－	山水　楼閣	－	「清水」	関西系	肥前	17C後	201605 001118
図版17	415	SK266	陶器	皿	(30.2)	12.3	10.2	灰・褐釉	下半無釉	白土ハケ	砂目痕5	無釉	－	肥前	17C中	201605 001119
図版17	416	SK266	陶器	壷	10.6	8.4	15.9	鉄釉	－	無釉	－	－	－	－	－	201605 001121
図版17	417	SK266	陶器	擂鉢	－	(11.0)	(8.6)	－	－	－	－	糸切	－	－	－	201605 001120
図版17	418	SK266	土師質	灯明皿	8.2	4.2	1.3	－	ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001125
図版17	419	SK266	土師質	小皿	(8.2)	(4.6)	1.5	－	ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－	201605 001124
図版17	420	SK266	土師質	土鈴	(38.4)	－	(5.2)	－	ナデ	ハケ目	－	－	－	－	－	201605 001122
図版17	421	SK266	土師質	サナ	(12.0)	－	2.6	－	ナデ	ナデ	穿孔	－	－	－	－	201605 001123
図版17	422	SK267	磁器	皿	－	(8.0)	(2.2)	染付	圏線	山水　草花	二重圏線	二重圏線	－	肥前	18C前	201605 001129
図版17	423	SK267	磁器	皿	－	(9.6)	(1.8)	染付	－	－	二重圏線不明	－	生掛釉	肥前	17C中～後	201605 001130
図版17	424	SK267	磁器	皿	10.8	(7.2)	1.9	染付	圏線　折松葉	紅葉	－	圏線　ハリ1	－	肥前	18C前	201605 001128
図版17	425	SK267	磁器	皿	10.7	7.0	2.2	染付	圏線　折松葉	紅葉	－	圏線　ハリ1	－	肥前	18C前	201605 001127
図版17	426	SK267	陶器	皿	－	(8.4)	(4.0)	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	蛇ノ目釉剥	無釉	－	肥前	18C前	201605 001132
図版17	427	SK267	陶器	皿	9.2	3.1	2.4	褐釉	－	－	－	無釉　糸切	－	－	－	201605 001133

第11表　第30次調査出土遺物観察表11

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量				染付　釉薬	文様・調整					特徴	製作地・製法	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）			外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等					
図版17	428	SK260上層	磁器	碗	10.9	4.0	6.1	染付		圏線　草花	－	－	圏線「[illegible]」	－	肥前	17C後	201605 001135
図版17	429	SK260上層	磁器	碗	(10.2)	4.4	5.9	染付		圏線　花唐草 波弁	四方樽	二重圏線 草花	二重角福	被熱	肥前	18C中	201605 001136
図版17	430	SK260上層	磁器	碗	(9.6)	4.0	5.8	染付		丸に格子＋山水・草花	－	－	－	－	肥前	18C中	201605 001138
図版17	431	SK260上層	磁器	碗	9.8	3.6	4.8	染付		菊	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001137
図版17	432	SK260上層	磁器	碗	8.8	3.8	5.0	青磁染付		山水楼閣	－	山水楼閣	－	－	肥前	18C中～	201605 001147
図版17	433	SK260上層	磁器	碗	10.0	3.4	5.2	色絵		鶴　梅垣　竹岩　草花	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001151
図版17	434	SK260上層	磁器	小碗	8.7	3.0	4.2	白磁		－	－	－	－	－	肥前	18C前	201605 001148
図版17	435	SK260上層	磁器	小碗	9.8	3.0	3.7	色絵		－	花弁	－	－	口銹 朝顔型	肥前	17C後	201605 001152
図版18	436	SK260上層	磁器	碗蓋	9.3	3.4	2.9	染付		圏線　四方樽 草花	－	－	「宣明年製」		肥前	17C後	201605 001153
図版18	437	SK260上層	磁器	碗蓋	9.8	3.6	2.9	染付		圏線　四方樽 草花	－	－	「宣明年製」	－	肥前	17C後	201605 001154
図版18	438	SK260上層	磁器	碗蓋	(10.0)	－	(2.9)	青磁染付		青磁釉	四方樽	二重圏線 五弁花	渦福	口銹	肥前	18C中	201605 001155
図版18	439	SK260上層	磁器	皿	12.4	7.2	3.4	染付		圏線　花唐草	山水楼閣	二重圏線 五弁花コンニャク印判	圏線「大明年製」ハリ１	口銹	肥前	18C中	201605 001156
図版18	440	SK260上層	磁器	皿	(13.6)	8.5	4.3	染付		圏線　花唐草	岩　草花　鹿	二重圏線	圏線「大明年製」ハリ１	口縁釉花	肥前	18C中	201605 001157
図版18	441	SK260上層	磁器	手塩皿	5.0	2.0	1.5	染付		－	折松葉	－	－	－	肥前	18C	201605 001165
図版18	442	SK260上層	磁器	ｾﾝﾁｭｱﾙ製物	(4.8)	(1.8)	1.9	染付		花唐草	－	－	－	口縁釉剥	肥前	－	201605 001164
図版18	443	SK260上層	磁器	蓋	(10.4)	－	(2.3)	染付		二重圏線　桐		－	－	－	肥前	18C中	201605 001168
図版18	444	SK260上層	磁器	水滴	11.2	4.2	7.0	色絵		鹿型物	－	－	布目	型物	肥前	－	201605 001169
図版18	445	SK260上層	陶器	坑	9.6	4.6	6.1	透明釉		－	－	無釉	－	関西系	肥前	18C前	201605 001170
図版18	446	SK260上層	陶器	坑	(8.6)	4.5	5.4	褐釉		－	－	－	－	肥手刺鍵	－	－	201605 001173
図版18	447	SK260上層	陶器	坑	－	(4.8)	7.3	透明釉		白土ハケ	白土ハケ	－	－	－	肥前	18C前	201605 001174
図版18	448	SK260上層	陶器	坑	(10.8)	(4.4)	4.4	透明釉		丸	白土掛流	－	－	瀬川系	肥前	18C前	201605 001175
図版18	449	SK260上層	陶器	小坏	(6.8)	3.4	3.6	褐釉		－	－	－	無釉	－	肥前	18C前	201605 001177
図版18	450	SK260上層	陶器	小坏	(5.6)	3.4	3.9	褐釉		－	－	－	無釉	－	肥前	18C前	201605 001178
図版18	451	SK260上層	陶器	皿	－	13.2	(6.6)	灰釉		－	白土ハケ	－	－	武雄系	肥前	17C後～18C前	201605 001181
図版18	452	SK260上層	陶器	燈籠	－	11.2	(7.2)	－		－	－	－	糸切	－	－	18C	201605 001184
図版18	453	SK260上層	陶器	壷	－	8.0	(7.4)	褐釉		白土掛流	－	－	－	－	－	－	201605 001187
図版18	454	SK260上層	陶器	壷	(18.4)	－	(9.9)	透明釉		－	－	－	－	－	－	－	201605 001212
図版18	455	SK260上層	陶器	蓋	7.2	4.2	3.2	褐釉		－	無釉	－	糸切	－	－	－	201605 001188
図版18	456	SK260上層	土師質	小皿	6.2	3.2	1.2	－		ナデ	ナデ	－	ナデ	－	－	－	201605 001189
図版18	457	SK260上層	土師質	灯明皿	7.9	4.2	3.2	－		ナデ	ナデ	－	糸切後ナデ	油煙付着	－	－	201605 001194
図版18	458	SK260上層	土師質	灯明皿	7.8	4.2	1.5	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001195
図版18	459	SK260上層	土師質	灯明皿	8.1	4.0	1.6	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001197
図版18	460	SK260上層	土製品	土鈴	7.5	6.4	0.8	－		ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 001202
図版18	461	SK260上層	土製品	型ﾎﾀﾞﾗﾝﾀﾞ	(6.3)	(3.2)	(2.5)	－		ナデ	－	－	－	鹿型把手	肥前	－	201605 001204
図版18	462	SK260中層	陶器	坑	(8.4)	4.6	6.2	褐釉		－	－	－	－	被熱	肥前	18C前	201605 001214
図版18	463	SK260中層	瓦	軒丸瓦	15.3	(4.4)	1.8	－		三巴	－	－	－	－	－	－	201605 001219
図版18	464	SK260下層	磁器	皿	－	－	(0.8)	染付		－	八卦	－	圏線	－	－	18C中～後	201605 001221
図版18	465	SK260下層	磁器	小徳口	5.3	2.9	2.9	白磁		－	－	－	－	口銹	肥前	18C前	201605 001220
図版18	466	SK260下層	陶器	坑	(9.8)	3.1	5.3	透明釉		菊	草花	－	無釉	関西系	肥前	18C前	201605 001223
図版18	467	SK260下層	陶器	小皿	9.5	3.8	2.3	褐釉		－	－	－	糸切　無釉	－	－	－	201605 001228
図版18	468	SK260下層	土師質	小皿	6.4	3.9	1.1	－		ナデ	ナデ	－	糸切	－	－	－	201605 001231
図版18	469	SK260下層	土師質	灯明皿	(8.0)	4.0	1.6	－		ナデ	ナデ	－	糸切	油煙付着	－	－	201605 001233
図版18	470	SK260ベルト	磁器	碗	(10.2)	4.4	5.6	染付		網	網	菊花	二重角福	－	肥前	18C前	201605 001236

第12表　第30次調査出土遺物観察表12

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版18	471	SK86ベルト	磁器	碗	(9.6)	4.3	5.3	染付	圏線　菊花 五葉若葉コン ニャク印刺	-	-	圏線 「大明年製」	-	肥前	18C前	201605 001237
図版18	472	SK86ベルト	磁器	小坏	(6.6)	2.8	4.0	染付	圏線　宮草花	-	圏線　花	-	色絵素地	肥前	18C前	201605 001240
図版18	473	SK86ベルト	磁器	小坏	6.8	2.7	3.8	染付	圏線　宮草花	圏線	圏線　花	-	色絵素地	肥前	18C前	201605 001241
図版18	475	SK86ベルト	磁器	小坏	(6.4)	(2.6)	2.6	染付	雨降	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001243
図版18	476	SK86ベルト	磁器	碗蓋	10.4	3.8	2.7	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C末～ 18C前	201605 001244
図版18	477	SK86ベルト	磁器	花生	-	6.6	(5.9)	青磁	-	無釉	-	-	-	肥前	18C 001245	201605
図版18	479	SK269上層	磁器	水滴	(4.6)	(3.0)	(2.0)	色絵	鶴	無釉	-	-	型物	肥前	18C	201605 001246
図版18	480	SK269上層	磁器	碗	9.7	3.7	5.0	染付	唐草	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001252
図版18	480	SK269上層	磁器	碗	10.0	3.9	5.0	染付	福禄	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001253
図版18	481	SK269上層	磁器	碗	(9.4)	3.9	5.7	色絵染付	圏線 ちに菊・花	-	-	二重角福	-	肥前	18C前	201605 001249
図版18	482	SK269上層	磁器	碗	(9.2)	4.2	6.2	染付	圏線 四方樽　花	-	-	「宣德年製」	-	肥前	17C末	201605 001256
図版18	483	SK269上層	磁器	小碗	8.4	-	(4.6)	染付	圏線　雨降	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001255
図版18	484	SK269上層	磁器	小坏	(7.6)	(4.0)	5.2	染付	山水　家屋	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001259
図版18	485	SK269上層	磁器	小坏	4.3	1.8	2.5	白磁	鎬型押	-	-	-	型物	肥前	18C	201605 001261
図版18	486	SK269上層	磁器	碗蓋	10.5	4.4	2.7	染付	蓮弁　草花	四方樽	二重圏線 蝶竹梅	-	-	肥前	18C中	201605 001257
図版18	487	SK269上層	磁器	碗蓋	9.4	3.2	2.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001258
図版18	488	SK269上層	磁器	皿	12.1	3.4	3.5	染付	-	波	蛇ノ目釉剥	無釉	-	肥前	18C中～ 後	201605 001265
図版18	489	SK269上層	磁器	皿	-	7.5	(2.7)	染付	圏線　唐草	山水	二重圏線 五弁花コン ニャク印刺	圏線 「大明年製」	-	肥前	18C中	201605 001264
図版18	490	SK269上層	磁器	皿	(24.0)	(10.6)	5.3	赤絵	-	草花　鳥	圏線　草	砂付着	-	中国	16C	201605 001262
図版18	491	SK269上層	磁器	小皿	5.1	2.1	1.5	染付	折松葉	-	-	無釉	-	肥前	18C 001268	201605
図版18	492	SK269上層	磁器	鐘口	(7.4)	(3.8)	4.9	白磁	-	-	-	-	口銹	肥前	18C前	201605 001272
図版19	493	SK269上層	磁器	蓋物	(9.4)	(6.0)	4.6	染付	葡萄	-	-	蛇ノ目凹型高台	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 001271
図版19	494	SK269上層	磁器	仏餉器	-	2.8	5.1	染付	圏線　草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001273
図版19	495	SK269	磁器	油壷	-	2.9	(3.3)	染付	笹	-	-	-	-	肥前	18C 001295	201605
図版19	496	SK269	陶器	坩	10.9	4.8	6.5	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	-	-	-	肥前	17C後～ 18C前	201605 001298
図版19	497	SK269	陶器	坩	11.6	4.6	4.6	透明釉	-	山水　舟	-	無釉	関西系	肥前	17C後～ 18C前	201605 001299
図版19	498	SK269	陶器	小坏	7.2	3.9	4.5	褐釉	-	-	-	無釉	-	肥前	17C後～ 18C前	201605 001300
図版19	499	SK269	陶器	瓶	6.6	-	13.6	透明・飴釉	白土ハケ	-	-	-	-	肥前	17C後～ 18C前	201605 001301
図版19	500	SK269	土製品	用水ﾀﾞﾝﾎﾞ	9.6	5.3	0.6	-	ナデ	ナデ	-	-	抽型絞手	肥前	-	201605 001302
図版19	501	SK269下層	磁器	碗	(9.6)	4.0	4.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後～ 18C前	201605 001307
図版19	502	SK269下層	陶胎	碗	-	3.7	5.0	染付	草花	-	-	-	-	-	18C前	201605 001308
図版19	503	SK269下層	磁器	小猪口	6.0	3.6	4.3	染付	二重圏線 松　波　鳥	-	-	「大明年製」	-	肥前	18C前	201605 001309
図版19	504	SK270	磁器	碗	-	(4.0)	(4.1)	染付	梅	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001310
図版19	505	SK270	磁器	碗蓋	-	4.3	(1.6)	染付	蓮弁	-	渦 フリモノ	「富貴長春」	-	肥前	-	201605 001311
図版19	506	SK270	磁器	水滴	(6.0)	3.7	2.0	染付	菊花型押	-	布目	-	-	肥前	18C	201605 001314
図版19	507	SK270	陶器	小皿	6.8	4.3	8.5	灰釉	-	-	-	-	-	肥前	18C	201605 001315
図版19	508	SK270	土師質	小皿	(11.0)	(8.6)	1.0	-	ナデ	ナデ	内面	-	-	-	-	201605 001317
図版19	509	SK271 3層	磁器	碗	(10.2)	(4.2)	5.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後～ 18C前	201605 001324
図版19	510	SK271 3層	磁器	碗	(10.2)	3.6	4.8	色絵	鳥　草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001323
図版19	511	SK271 3層	磁器	碗	(10.4)	4.1	5.8	染付	二重圏線　鳥	-	-	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605 001325
図版19	512	SK271 3層	磁器	碗蓋	10.8	4.6	2.3	染付	二重圏線 梅　草　鳥	圏線　ダミ	二重圏線 松竹梅	-	-	肥前	18C中	201605 001326

第13表　第30次調査出土遺物観察表13

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			釉薬	文様・調整				特徴	製作時・残上	時期	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	染付　釉薬	外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版19	513	SK271 3層	磁器	皿	(11.8)	(7.6)	3.4	染付	圏線　唐草	草花	二重圏線 玉井花コン ニャク印刊	「年製」？	くらわんか手	肥前	18C中	201605 001327
図版19	514	SK271 3層	陶器	皿	(12.6)	4.6	3.4	灰釉	－	－	蛇ノ目釉剥	無釉	－	肥前	18C	201605 001328
図版19	515	SK271 3層	土師質	焙烙	(50.2)	－	(5.0)	－	ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 001330
図版19	516	SK271 3層	土師質	鉢	(31.0)	－	(9.0)	－	ハケ　ナデ	ナデ	－	－	－	－	－	201605 001329
図版19	517	SP230	陶器	土鍋蓋	13.5	5.1	3.7	透明釉	鉄絵	－	－	－	－	－	19C 中	201605 000825
図版19	518	SP230	陶器	土鍋	17.0	7.8	7.2	透明釉	無釉	透明釉	－	－	把手鉄釉 煤付着 片口	－	19C中	201605 00824
図版19	519	SP262	陶器	皿	11.1	6.5	2.7	灰釉	－	鉄絵	－	無釉	志野焼	美濃	17C前	201605 001106

第３章　第31次調査

１．検出遺構

今回の調査では、弥生時代の土坑２基、16～17世紀の流路１条、近世の溝２条、土坑８基、ピット等が検出された。

溝

ＳＤ６（第21・24図　図版21）

調査区北東で検出された溝である。軸はＮ-51°-Ｅである。平面形状は直線的であるが、北側は太くなる。断面形は逆台形を呈し、北側は深くなる。検出された長さは3.4m、幅0.7m、深さは北側で0.5m、南側で0.3mである。埋土は暗褐色の粘質土が主体を成す。ＳＤ９を切る。遺物は19世紀の陶磁器等が出土している。

ＳＤ９（第22・24図　図版21）

調査区北側で検出された溝である。軸はＮ-33°-Ｗである。平面形状は不整形で、やや蛇行する。断面形は逆台形を呈する。検出された長さは5.2m、幅2.9m、深さは0.2mである。埋土は暗褐色の粘質土が主体を成す。ＳＤ６、ＳＫ８、ＳＫ18、ＳＫ21（30次ＳＫ208）に切られ、ＳＤ12を切る。遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器等が出土している。

土坑

ＳＫ２（第22・24図　図版21）

調査区北側で検出された長軸2.1m、短軸1.6m、深さ0.21mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＫ５に切られ、ＳＫ10を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

ＳＫ５（第22・24図　図版21）

調査区北側で検出された長軸1.6m、短軸0.8m、深さ0.2mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＫ２・10を切っている。遺物は18世紀の陶磁器等が出土している。

ＳＫ７（第22・25図　図版21）

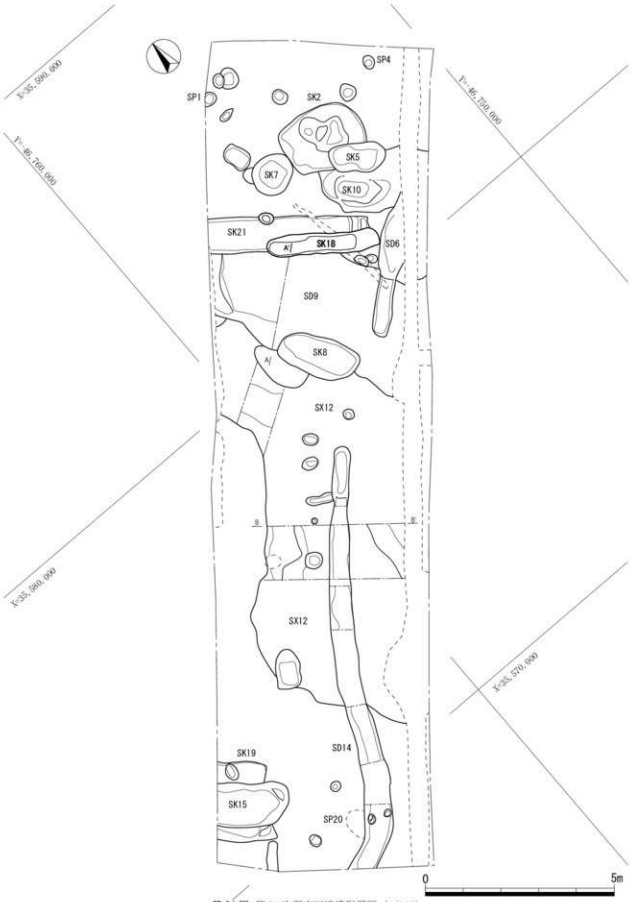
調査区北側で検出された直径1.1m、深さ0.4mの土坑である。平面形は円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。遺物は弥生時代中期の土器等が出土している。

ＳＫ８（第22図　図版21）

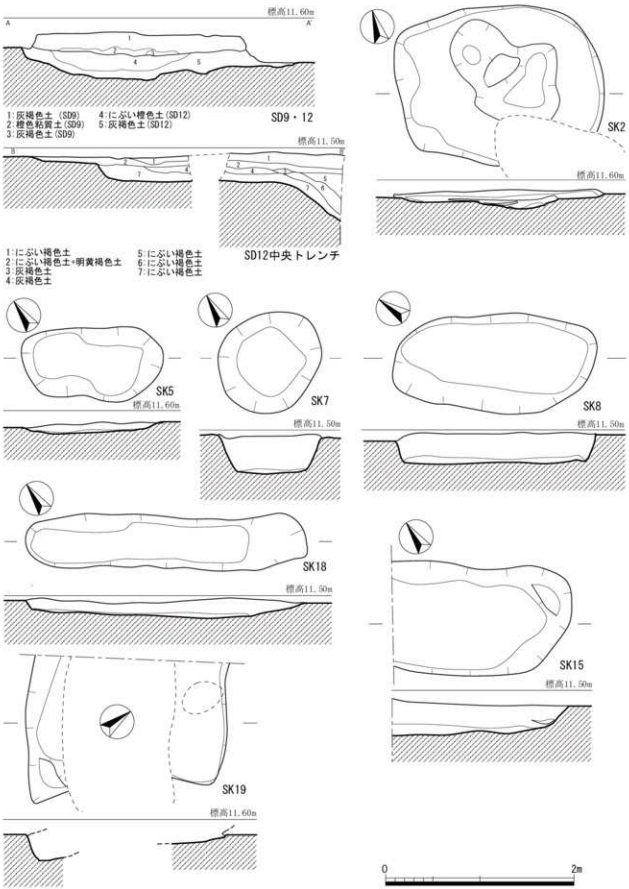
調査区中央北寄りで検出された長軸3.0m、短軸0.5m、深さ0.3mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＤ９を切っている。遺物は18世紀の陶磁器等が出土している。

ＳＫ10（第21図　図版22）

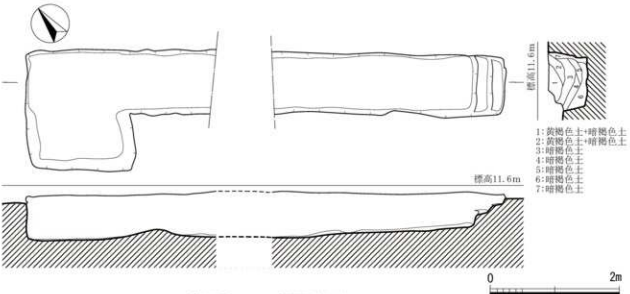
調査区北側で検出された長軸2.0m、短軸1.3m、深さ0.2mの土坑である。平面形は楕円形を



第21図　第31次調査区遺構配置図（1/100）



第22図　ＳＤ9・ＳＸ12、ＳＫ2・5・7・8・15・18・19 実測図 (1/40)



第23図　ＳＫ21 実測図(1/40)

呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＫ２・ＳＫ５に切られる。遺物は磨滅が著しい弥生時代中期の土器等が出土しているが、細片の為図示できない。

ＳＫ15（第22・25図　図版22）

調査区南側で検出された長軸1.8m、短軸1.1m、深さ0.4mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＫ19を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

ＳＫ18（第22図　図版22）

調査区北側で検出された長軸2.9m、短軸0.6m、深さ0.2mの土坑である。平面形は細長い方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＤ９・ＳＫ21を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

ＳＫ19（第22・25図）

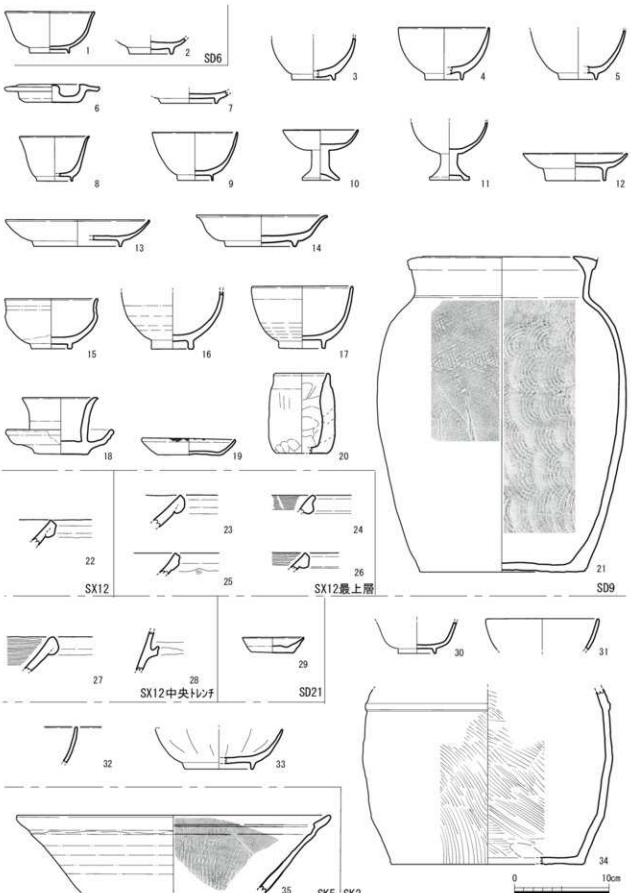
調査区南側で検出された長軸2.1m、短軸1.5m、深さ0.3mの土坑である。平面形は方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＫ15に切られる。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

ＳＫ21（30次ＳＫ208）（第23・25図　図版22）

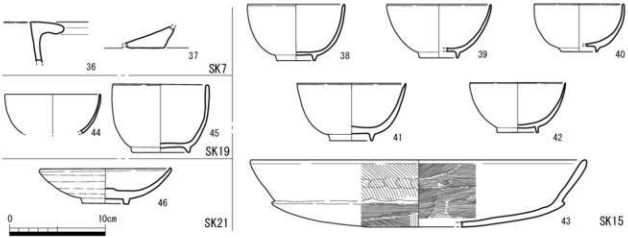
調査区北側で検出された長軸4.2m、短軸0.9m、深さ0.7mの土坑である。平面形は靴形に屈曲する細長い長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器等が出土している。

流路

ＳＸ12（第24図　図版22）



第24図　ＳＤ６・９・21、ＳＸ12、ＳＫ２・５出土遺物実測図（1/4）



第25図　ＳＫ７・15・19・21実測図（1/4）

調査区中央から南側で検出された長軸11.6m、短軸3.9m、深さ0.8mの流路である。平面形は不整形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は黄褐色の粘土を斑に含む、暗褐色の粘質土を主体とする。ＳＤ９・14、ＳＫ８に切られる。遺物は16世紀から17世紀の土器、陶磁器等が出土している。西に隣接する第30次調査区へも続いており、幅や方向をランダムに変えていく。底面は水性堆積を示すように鉄分が付着しており、苑池の様相を呈している。

２．出土遺物（第24・25図　図版23・24）

今回の調査では、弥生土器、近世陶磁器など、パンコンテナー２箱分の遺物が出土した。
以下特筆すべき遺物について述べる。法量等の詳細については、遺物観察表を参照願う。

１はＳＤ6出土の染付の小碗である。口縁は端反を呈し、19世紀の所産とみられる。３～21はＳＤ9出土遺物である。３～５は18世紀前半の丸碗である。14の染付皿は口縁が端反を呈し、高台径が13よりも小さくなることから、17世紀後半の所産とみられる。18のひょうそくは器高が高く、17世紀後半の所産とみられる。ＳＸ12の出土遺物は、22～28であり、いずれも16世紀の土鍋や羽釜である。ＳＫ7からは、弥生時代中期の土器が出土している（36、37）。ＳＫ15出土の磁器碗38～42は18世紀前半の所産とみられる。

３．総括

（１）遺構の時期

古い遺構から順に述べる。ＳＫ７、ＳＫ10は弥生時代の遺構である。両者とも弥生時代中期の土器が出土している。次に古い遺構は、ＳＸ12である。16世紀の土師器の土鍋、小皿などが出土している。太さを変えながら蛇行する、不整形な平面形状、緩やかにカーブを描く断面形状、そして遺構底面の鉄分の沈着などから鑑みるに、ＳＸ12は流路であると考えられる。次に古い遺構は、17世紀後半から18世紀前半の遺物が出土するＳＤ９、ＳＫ21である。ＳＤ９、ＳＫ21を切っているＳＫ８、ＳＫ18は18世紀前半の遺物が出土している。また、ＳＫ２、ＳＫ５、ＳＫ15、ＳＫ19も18世紀前半の遺物が出土している。最も新しい遺構は、ＳＤ６であり、19世紀から幕末の遺物が出土して

いる。ＳＤ14、ＳＰ１、ＳＰ４は近代の陶磁器等が出土していることから、攪乱と判断し、遺構の詳細は述べていない。

（２）居住者について

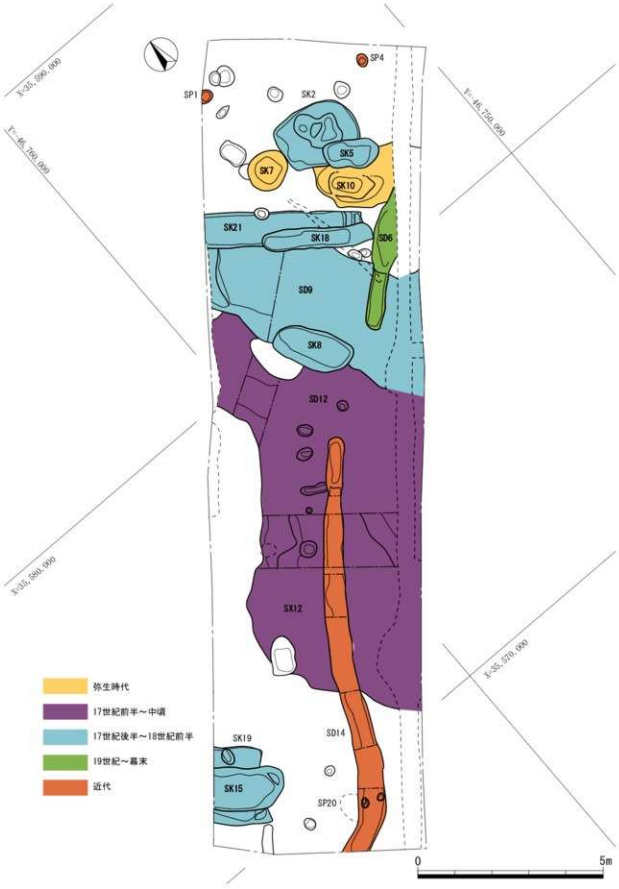
当屋敷地の居住者は、絵図によると、延寶八年図によると安藤氏、天保図以降は高橋氏となっている。以下各氏について述べる。

安藤氏は、「御家中略系譜」（新有馬文庫　久留米市中央図書館蔵）に記載がない。「寛永御家中分限帳」（1624～1643年）『久留米市史』第九巻資料編近世Ⅱによると、安藤忠兵衛が200石の馬廻（渡瀬将監組）と記載されている。1637年の島原の乱では、足軽を四人連れて参陣している。「寛文分限帳」（1666年）には、御城番安藤伊右衛門とあり、忠兵衛と同一人物である。扶持は250石、長柄は1本、指物は銀の半月、渡瀬将監組に属する。また、同分限帳の別項に、御配当弐拾石三人扶持、此米七石、但し一ヵ年分、安藤次太夫とあり、こちらは、伊右衛門の嫡子、後の半次と考えられる。『延寶八年図』には、安藤半次とある。その３代後の亨は、明和７年に出奔し、廃家断絶している。『明治二年図』には、十間屋敷に安藤家があるが、当地の安藤氏と同家系なのか、不明である。次に高橋氏について述べる。

次に高橋氏について述べる。当地の高橋氏は、城下にある高橋三家のうちの一系統である。本家筋は外郭に居住した高550石の高橋瀬兵衛家である。高橋安右衛門、安左衛門、音門などがおり、明治まで外郭に継続して居住している。初代瀬兵衛の弟が二人おり、上から弥惣右衛門、権左衛門である。この二人は別家を立てているが、「御家中略系譜」には、「権左衛門　在別系」とのみあり、詳細は不明である。弘化から嘉永ごろとみられる絵図によると、当地には高橋権四郎が記載されており、権の字が共通することから、当地の高橋権四郎は、権左衛門の系統である可能性がある。弥惣右衛門の家系は、京隈小路2番目筋の東側に屋敷を構えている。本家筋の初代瀬兵衛は、初め松平左衛門督（池田輝政の子忠継か）に仕え、後に久留米において有馬家に召し出され、島原の乱では大小姓として参陣している。瓊林院（有馬忠頼）の代に出世し、550石を得る。以後、江戸屋敷聞番役、御手廻頭役格などを歴任した。安政二年図及び明治５年図では、高橋門蔵（権四郎の次の代）が記載されている。「明治二年藩士分限帳」には、「竹之間組御蔵米130石御殿番當時助高橋門蔵小」とある。小は小松原の意であり、小松原小路に位置する当地の高橋氏が130石の家格であったことがわかる。

第 14 表　出土遺物観察表１

図版・写真番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	色調（釉調） 外面	色調（釉調） 内面	文様・調整 外面	文様・調整 内面	底面・高台 内印箆等	備考	登録番号
第24図 図版23	1	SD6	磁器	小碗	(9.4)	4.2	4.4	染付		花鳥	—	—	19世紀	201904 000007
第24図 図版23	2	SD6	磁器	碗	(7.4)	4.6	(1.6)	白磁		—	—	—		201904 000010
第24図 図版23	3	SD9	磁器	碗	—	(4.6)	(4.4)	染付		菊・蝶	—	銘あり	19世紀後半	201904 000017
第24図 図版23	4	SD9	磁器	碗	(9.6)	(4.0)	5.5	染付		梅	—	—	19世紀後半	201904 000018
第24図 図版23	5	SD9	磁器	碗	—	(4.2)	(5.2)	染付		草花	—	—	19世紀後半	201904 000019
第24図 図版23	6	SD9	陶器	土瓶蓋	(10.0)	5.2	1.9	鬼釉		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	—		201904 000012
第24図 図版23	7	SD9	磁器	皿	—	(6.0)	(1.4)	染付		雅楽	梅蕾手	（太明）	17世紀後半～18世紀前半	201904 000022
第24図 図版23	8	SD9	磁器	小坏	(7.3)	(3.8)	4.7	染付		松葉	—	—	17世紀後半～18世紀前半	201904 000024
第24図 図版23	9	SD9	磁器	碗	9.0	3.8	5.1	白磁		—	—	—		201904 000025
第24図 図版23	10	SD9	磁器	仏飯	(7.8)	3.9	5.3	白磁		—	—	—		201904 000027
第24図 図版23	11	SD9	磁器	仏飯	—	4.2	(6.0)	白磁		—	—	—		201904 000026
第24図 図版23	12	SD9	磁器	脚付皿	(10.9)	(6.6)	2.9	染付		雅楽	麻花	—		201904 000020
第24図 図版23	13	SD9	磁器	皿	(15.2)	(10.6)	2.8	染付		雅楽・蝶来	蝶	—	19世紀後半	201904 000021
第24図 図版23	14	SD9	磁器	皿	13.9	7.4	3.3	染付		雅楽	山水楼閣	—	17世紀後半	201904 000023
第24図 図版23	15	SD9	陶器	碗	(9.8)	4.4	5.8	薬灰釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000028
第24図 図版23	16	SD9	陶器	碗	—	4.5	(6.0)	薬灰釉・銅緑釉		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	砂目	17世紀後半	201904 000029
第24図 図版23	17	SD9	陶器	碗	(10.7)	(5.0)	6.6	鬼釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000030
第24図 図版23	18	SD9	陶器	ひょうたく	8.0	5.1	6.0	鬼釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000031
第24図 図版23	19	SD9	土師器	小皿	9.8	6.6	1.8	にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ	回転ナデ	—	鉄錆付着	201904 000033
第24図 図版23	20	SD9	土師器	焼塩壺	(5.8)	(5.4)	8.4	橙	橙	ナデ・コビキサキ	ナデ・コビキサキ	ナデ コビキサキ		201904 000032
第24図 図版23	21	SD9	陶器	甕	(20.0)	17.4	33.3	灰釉・自然釉		タタキ・ナデ	タタキ	タタキ		201904 000034
第24図 図版24	22	SD12	土師器	土鍋	—	—	(2.6)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	—		201904 000036
第24図 図版24	23	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.6)	橙	橙	ナデ	ナデ	—		201904 000039
第24図 図版24	24	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.0)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000040
第24図 図版24	25	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.1)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	—		201904 000041
第24図 図版24	26	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(1.5)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000042
第24図 図版24	27	SD12中央トレンチ	土師器	土鍋	—	—	(3.2)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000043
第24図 図版24	28	SD12中央トレンチ	土師器	羽釜	—	—	(4.2)	褐灰	橙	ナデ	ナデ	—		201904 000044
第24図 図版24	29	SD21	土師器	小皿	(6.5)	(4.4)	1.6	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ	ナデ	糸切り		201904 000045
第24図 図版24	30	SK2	磁器	碗	—	(3.9)	(3.3)	染付		麻花・竹垣	—	「太明年製」	19世紀前半	201904 000001
第24図 図版24	31	SK2	磁器	碗	(12.0)	—	(3.3)	染付		雅楽・梅	—	—	19世紀後半	201904 000002
第24図 図版24	32	SK2	磁器	碗	—	—	(3.8)	染付		雅楽・草・岩	雅楽	—	19世紀前半	201904 000003
第24図 図版24	33	SK2	磁器	皿	(13.4)	(6.3)	4.2	白磁		—	—	—	口縁輪花	201904 000004
第24図 図版24	34	SK2	瓦質土器	火鉢	—	20.4	(18.5)	灰	灰	ハケメ	ハケメ	ナデ		201904 000005
第24図 図版25	35	SK5	陶器	擂鉢	(33.4)	—	(8.2)	鬼釉	—	回転ナデ	櫛目	—		201904 000006
第25図 図版25	36	SK7	弥生土器	甕	—	—	(4.3)	にぶい橙	橙	櫛刺	櫛刺	—		201904 000013
第25図 図版25	37	SK7	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	にぶい橙	橙	コビキサキ	コビキサキ	—		201904 000014
第25図 図版25	38	SK15	磁器	碗	(10.3)	4.0	6.0	染付		牡丹・鳳凰	—	「大明成化年製」		201904 000015
第25図 図版25	39	SK15	磁器	碗	(10.9)	(4.0)	5.6	染付		菊	—	雅楽		201904 000046
第25図 図版25	40	SK15	磁器	碗	(9.4)	(3.8)	5.0	染付		牡丹	—	雅楽		201904 000047
第25図 図版25	41	SK15	磁器	碗	10.5	4.1	5.2	染付		花唐草	—	「大明成化年製」		201904 000048
第25図 図版25	42	SK15	磁器	碗	(11.4)	4.4	6.0	色絵		鳳凰・雲文	—	雲文		201904 000049
第25図 図版25	43	SK15	土師器	焙烙	(35.4)	(30.6)	7.0	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	ハケメ		201904 000050
第25図 図版25	44	SK19	磁器	碗	10.0	—	(4.1)	染付		花唐草	—	—		201904 000051
第25図 図版25	45	SK19	磁器	碗	9.9	5.9	7.1	染付		花唐草	—	—		201904 000052
第25図 図版25	46	SK21	陶器	皿	13.9	4.8	3.8	銅緑釉		回転ナデ	粗の目轆轤目	—		201904 000053



第 26 図　第 31 次調査区時期別遺構図（1/100）

图版

1. 調査地点より筑後川を望む（東から）

2. 1区遠景（南から）

図版２

1．２区遠景（南から）

2．３区遠景（南から）

1. SA213 全景（北から）

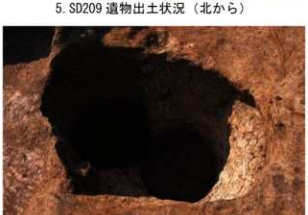
2. SD2 土層（北から）

3. SD62 掘下状況（南から）

4. SD200 土層（南から）

5. SD209 遺物出土状況（北から）

6. SE138 掘下状況（東から）



7. SE146・147 掘下状況（北から）

8. SE174 掘下状況（南から）

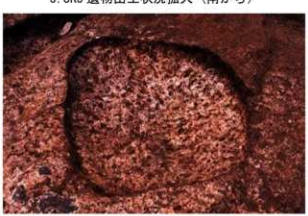
図版4

1. SE187 掘下状況（南から）

2. SK5 遺物出土状況（南から）

3. SK5 遺物出土状況拡大（南から）

4. SK5 完掘状況（西から）



5. SK6 完掘状況（東から）

6. SK11 完掘状況（西から）

7. SK12 遺物出土状況（東から）

8. SK19 完掘状況（南から）

1. SK20 甕検出状況（西から）

2. SK85 完掘状況（西から）

3. SK90 完掘状況（西から）

4. SK92・95 完掘状況（北から）

5. SK100 完掘状況（東から）

6. SK103 完掘状況（西から）

7. SK120 完掘状況（東から）

8. SK128 検出状況（東から）

図版 6

1. SK129 検出状況（東から）

2. SK131 完掘状況（東から）

3. SK153 完掘状況（北から）

4. SK158 完掘状況（西から）

5. SK171 完掘状況（西から）

6. SK175 検出状況（西から）

7. SK180 完掘状況（北から）

8. SK190 完掘状況（南から）

1. SK212 完掘状況（東から）

2. SK217 完掘状況（南から）

3. SK219・226 完掘状況（南から）

4. SK223 完掘状況（西から）

5. SK233 完掘状況（西から）

6. SK243 完掘状況（西から）

7. SK248 土層状況（北から）

8. SK268 完掘状況（北から）

1. SK271 完掘状況（東から）

2. SP230　出土状況（北東から）

3. SX70 検出状況（南から）

4. 東西屋敷境段差（北から）

5. 東西屋敷境段差（南から）

6. 南北屋敷境段差（東から）

7. ４区遠景（北から）

8. ４区掘下状況（北から）

1
2
3
4
5
7
6
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
21
22
20
23
24
25
26
27
28
34
31
29
30
32
33
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
52
49
50
51
53
55
58
54
56
57

出土遺物写真 1

59
60
61

62
63
64

65
66
67

68
69
70

71
72

75
76

73
74
77
79
78

80
81
82

83
84
85
86
87
88
89

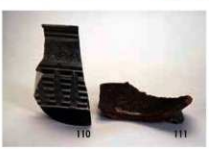
90
91
92

93
94
95
96
97

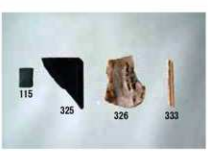
98
100
99
102
101

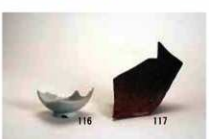
106
105
103
104

107
108
109


110
111

112
113
114


115
325
326
333


116
117

出土遺物写真２

118
119
120
121
122
126
132
125
127
130
123
124
131
128
129
134
133
135
136
138
137
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151

出土遺物写真３

152
164
165
168
169
198
199

153
154

153

155
156
157

158
159

160
161

162
163

166
167

170
171
174

172
173

178
175
176
177

179
180
181

182
183

182

184
185

186
187
188

189
190
195

191
192
193
194

出土遺物写真 4

196
197
200
201
202
204
203
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
231
228
229
230
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243

出土遺物写真 5

244
245
246

247
248
249

250

252
251

253
255

254
256

257
258

259
260

261
262

263

264
265
266

267
268
269
270

271
272
273
274

275
276
277
278

279
280
281

282

283
284

285
286
287
288

出土遺物写真6

289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
301
300
306
302
308
303
307
309
304
305
310
311
312
313
314
315
316
317
318
322
323
324
319
320
321
321
321
327
328
329
331
330
332
334
335

出土遺物写真 7

339
336
337
338
342
340
341
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
356
357
358
353
354
355
359
360
361
363
364
365
366
367
368
362
369
370
371
374
373
372
377
375
376

出土遺物写真 8

378
379
380
381

382
383

384
385

386
387
388

389
390
391

395
396
392
393
394

401
397
398
399
400

402
403
404

407
405
406

408
409
410
411

412
413
414

415

416
417

421
418
419
420

422
423
424
425

426
427

428
429
430
431

432
433
434
435

出土遺物写真 9

436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
455
451
452
453
454
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
476
472
473
474
475
478
477
479
480
481
482
483
484
485
492

出土遺物写真10

486
487
488
489
493
494
491
490
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519

出土遺物写真11

1. 調査区遠景（南東上空から）

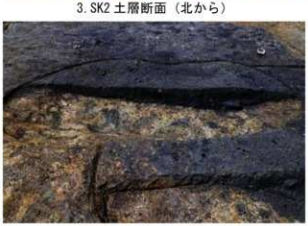
2. 調査区遠景（東上空から）

1. SD6 完掘状況（北から）

2. SD9・SX12 土層断面（西から）

3. SK2 土層断面（北から）

4. SK2 完掘状況（西から）



5. SK5 土層断面（北から）

6. SK5 完掘状況（北から）

7. SK7 完掘状況（北から）

8. SK8 完掘状況（西から）

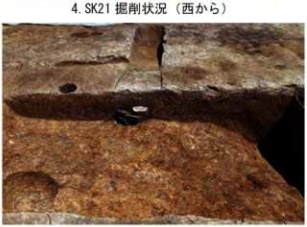
1. SK10 完掘状況（北から）

2. SK15 完掘状況（東から）

3. SK18 土層断面（西から）

4. SK21 掘削状況（西から）

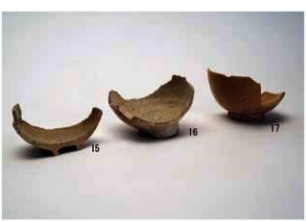
5. SK21 土層断面（東から）

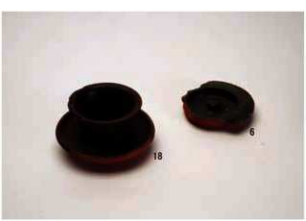


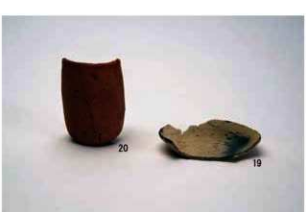
6. SX12 土層断面（南から）

7. SX12 土層断面（西から）

8. SX12 掘削状況（北から）







出土遺物写真 1

22
23
24
25
26
27
28
29

30
31
32
33

34
35

36
37

38
39
40
41
42

43

45
44

46

出土遺物写真２

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうぐまさむらいやしきいせき　だい30・31じはっくつちょうさほうこく
書　　名	京隈侍屋敷遺跡　第30・31次発掘調査報告
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第431集
編著者名	熊代昌之（編）　江頭俊介
編集機関	久留米市　市民文化部　文化財保護課
所　在　地	〒830-8520　福岡県久留米市城南町15-3　TEL 0942-30-9225　FAX 0942-30-9714 Email：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2021（令和3）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
きょうぐまさむらいやしきいせき 京隈侍屋敷遺跡 第30次調査	くるめしきょうさむら 久留米市京町 256	40203	31187	33°19′11″	130°29′52″	20160630～ 20170316	829㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
京隈侍屋敷遺跡 第30次調査	集落	近世	柵列　1 溝　7 土坑　61 井戸　4 ピット　2	近世陶磁器、中国陶磁器、西洋陶器、土師質土器、石製品、瓦	幕末期の土坑より西洋陶器、清朝磁器が出土

要　約

近世久留米藩武家屋敷、京隈侍屋敷の一部を調査。4家分の敷地を調査し、17世紀半ばの段造成による土木工事痕跡を検出。また、4家の屋敷境を検出し、城下の町割りの一端が明らかとなった。調査地は主に天保年間久留米城下絵図における山田家の敷地内であり、排水用の溝、土坑、井戸、ピット等を検出。19世紀の土坑、SK5からは、ほぼ完形の西洋陶器皿、清朝磁器碗等が出土している。

土木工事の届出日	平成28年6月13日	遺物の発見通知日	平成29年3月21日 28文財第1798号

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
きょうぐまさむらいやしきいせき 京隈侍屋敷遺跡 第31次調査	くるめしきょうさむら 久留米市京町 256	40203	31187	33°19′11″	130°29′52″	20190701～ 20190912	138㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
京隈侍屋敷遺跡 第31次調査	集落	弥生 近世	土坑　2 流路遺構　1 溝　2 土坑　8 ピット	弥生土器、近世陶磁器、土師器、瓦質土器	近世の侍屋敷に伴う土坑や溝及び、苑池遺構などを検出した。

要　約

久留米市の北西部の低位段丘上に位置する京隈侍屋敷遺跡の調査である。調査区は市立京町小学校敷地内にあたる。調査は近世の屋敷地の一部を対象とした。屋敷に伴う土坑や溝、苑池遺構などを検出し、陶磁器等の遺物が出土した。隣接する第30次調査と合わせ、安藤氏及び高橋氏の生活史解明に資する資料が得られた。

土木工事の届出日	平成28年6月13日	遺物の発見通知日	令和元年9月17日 1文財第686号

京隈待屋敷遺跡
—第30・31次発掘調査報告—
久留米市文化財調査報告書　第431集
令和3年3月31日
発行　久留米市教育委員会
印刷　中村印刷有限会社